新女界

第四巻第九號目次

○吾等の覺悟（一五）……安井哲子

改元所感

○明治より大正に入る婦人界（二五）鳩山春子

○矯風事業の今昔（二八）……小崎千代子

○來らんとする社會に望む（三〇）……廣岡淺子

△諒闇中の朝鮮（三五）……廣瀬咲子

△ブース大將逝く（三六）……記者

○維新前後（四〇）……法學博士 杉亨二

御踐祚と御勅語（一）

明治帝の御生涯（五）

皇太后陛下の御坤德（一一）

○個々の音（四〇）……野口精子

△水と花と小鳥（四一）……久野恭子

○米國婦人（四二）……原口竹次郎

○趣味の生活（五〇）……海老名みや子

△倫敦の保姆と初兒の躾け（五六）……太田秀子

○ローヘングリン（五六）……三枝幾子

○隨感（六六）

△天眞なれ……海老名みや子△受洗後の修養……岡崎小文子△明治より大正に入りし日……笠間しのぶ子

○時事其折々（七〇）

△編輯だより（七二）……編者

○耶蘇故山を偲ぶ（一九）……海老名彈正

東京新人社發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

千代田香油

美しきお髪をお望の方は香のいゝ千代田をお召し遊ばせさつぱりとして奥床かしく人様にまで快感を與へます

定價 七十錢 卅五錢 廿五錢 十七錢

スワン石鹸輸入元

山岸三之助

東京……馬喰町

大坂……鹽町

牧羊者カード

●縦三寸二分 横二寸三分

●十种取合五十枚入壹包二十五錢郵税二錢

全國日曜學校大會紀念として發賣せる日曜學校用新式カードにして幼年科及高等科の男女生徒の意向に適する樣彩色體裁等に充分なる注意を加へ五十枚共各異なりたる聖句を刷り込みたる高尚優美の品なれば御注文の上續々御試用あらん事を翼ふ

東京小石川區武島町二十五

發賣元 便宜堂商店

振替貯金東京六三三〇番

特約販賣店 ○東京銀座教文館●東京尾張町警醒社書店●東京有樂町基督教書類會社●東京神田小川町普光社○大坂北久寳寺福音社書店

便宜堂商店目錄御入用の方へ二錢切手又往復はがきにて申越あれば進呈致候

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏より秋に掛けて
萬年筆の最も必要なる季節

デスクの上を整理すべく萬年筆の最も必要なるは勿論也然れども萬年筆の愈々缺く可らざるはデスクを離れたる時、外出したる時、旅行したる時、從來の筆硯を携帶する能はざる場合、或は特に机に向ふ能はざる時に益々顯著也。

洋服のポッケット、和服の袂、旅行の鞄の中、萬年筆は何によりも缺くべからず、常に萬年筆を携ふるものは常に機敏也敏捷也、如何なる場合に於ても即座にビジネスを辨じ得べし

オリオン萬年筆	飾無きものは	金二圓八十錢
	飾有るものは	金三圓二十五錢
オノト萬年筆	飾無きものは	金六圓以上
	飾有るものは	金七圓以上
ウオーターマン萬年筆	飾無きものは	金五圓以上
	飾有るものは	金七圓以上

東京日本橋通
大阪心斎橋筋
京都三條通

丸善株式會社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚べき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり

今上天皇陛下踐祚

維時明治四十五年七月三十日午前一時叡聖文武なる　今上天皇陛下にはこゝに踐祚の大典を行はせられ第百二十二代の皇位を繼紹し萬世一系の大統を承けさせ給ふ。

恭しく惟みるに聖上陛下俄に大喪に遭はせられ限りなき御悲痛を懷き給ひながら皇位の一日も曠くするべからざるより直に寶祚を繼ぎ萬機を親裁あせらる吾等逈かに御宸襟を察し奉れば萬感交々迫り恐懼措く所を知らず唯畏み虔みて渾身の赤誠を捧げ奉るのみ。

陛下天資英明日新の文物世界の大勢に通じ又夙に民情を視察し給ふ而して今や九五の位に即き上は先帝の遺業を大成し下は蒼生を撫恤し以て祖宗の休光を無窮に發揚せんとし給ふ吾等心を一にして皇運の隆昌と國家の發達とのために衷心の至誠を效さんことを誓ふと倶に大能の神常に我皇室と國家との上にありて益優渥なる恩寵を垂れ給はんことを禱り奉る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新帝御勅語

朕俄ニ大喪ニ遭ヒ哀痛極マリ罔シ但タ皇位一日モ曠クスヘカラス國政須臾廢スヘカラサルヲ以テ朕ハ玆ニ踐祚ノ式ヲ行ヘリ

顧フニ　先帝叡明ノ資ヲ以テ維新ノ運ニ膺リ萬機ノ政ヲ親ラシ內治ヲ振刷シ外交ヲ伸張シ大憲ヲ制シテ祖訓ヲ昭ニシ典禮ヲ頒ツテ蒼生ヲ撫ス文敎玆ニ敷キ武備爰ニ整ヒ庶績咸熙リ國威維揚ル其ノ盛德鴻業萬民具ニ仰キ列邦共ニ覩ル寔ニ前古未タ曾テ有ラサル所ナリ

朕今萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ統治ノ大權ヲ繼承ス祖宗ノ宏謨ニ遵ヒ憲法ノ條章ニ由リ之レカ行使ヲ愆ルコト無ク以テ先帝ノ遺業ヲ失墜セサランコトヲ期ス有司須ラク先帝ニ盡シタル所ヲ以テ朕ニ事ヘ臣民亦和衷協同シテ忠誠ヲ致スヘシ爾等克ク朕カ意ヲ體シ朕カ事ヲ奬順セヨ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治天皇陛下

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御製

わかこゝろおよはぬ國のはて迄もよるひる神は守りますらむ

國の爲たふれし人を惜しむにもおもふは親のこゝろなりけり

あさみどりすみわたりたる大空のひろきをおのか心ともかな

曉のねさめしつかに思ふかなわかまつりごといかゝあらんと

四の海みなはらからとおもふよになど波風のたちさわくらむ

子等はみな軍のにはにいてはてゝ翁やひとり山田もるらむ

思ふ事ありのまに〳〵につらぬるか暇なきよの慰みにして

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

先帝陛下の御生涯

御生ひ立ち

京都御所を繞らす御苑の一部に「祐の井」と銘せる碑の立てるを見る、これ畏くも　先帝陛下御産湯の料に汲み奉りたる井泉の靈跡と申す。實に　先帝陛下には嘉永五年九月二十二日、太陽暦に算して十一月三日、その午後二時に御降誕ましく〱たるなり。

御父帝孝明天皇には、皇子の御名を祐宮と授け賜ひ、故大納言中山忠能卿と、其の女故中山慶子の方とに御養育掛を命せさせ給へり。いと健かに生ひ立たせ給ひ、御齡五歳にして故正親町實徳卿を傅とし御學問遊ばさるゝに、御成績誠に秀れさせられ、英明の御天資愈々光輝かせ給へり。御齡九歳にして皇太子に立たせ給ひ、御名を睦仁と賜ふ。

御即位

慶應二年十二月孝明天皇御登遐あらせられ、皇太子には翌年一月、我が帝國第百二十一代の寶祚を踐ませ給ふ。御齡十七歳なり。御代を明治と改元、其の年　皇后宮御入内あらせ給へり。

御即位と共に萬機御親裁を以て、總て舊時の諸制度を改廢し、文物革新の機運を進むべき新政を布かせ給ひ、即ち維新の大業を成就し、國運發展の基礎を築かせらる。

暫く史を繙き思を當時に走するに、御降誕の翌年提督ペルリ、米國より來りて浦賀に彼の黒船を横へ我が鎖國の門を叩きたり。爾來開港是非の論海内に喧しく、勤王の志士京洛に往來劇しく、上下騷然、紛糾錯綜の人心は歸向する處を知らず、多事多難湧くが如き世に、御年少うして英主と仰がれ給ひ、内には治政を進め、外には列強と國交の端を開き、我が日本帝國開闢以來の偉業を創めさせられしなり。

御治世

都を東京に遷させられ、千代田の大宮に、夙夜大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

御心を盡させ、內外の國政を統べさせ給ふや、誠に國運隆々として旭日の昇るが如く世界に輝き出でぬ畏けれど明治の御代に起れる御事共を左に記し列ね御偉業を仰ぎ奉る一端とせばや。

御遷都の後、西國東北、近畿、北陸、北海道、山陽各地に御巡幸、親しく庶民生活の有樣を御覽せさせられ民業を勸め、敎育を振興せさせ給ふ。

二十二年帝國憲法を欽定、國會を召集し給ひ、維新の初めより其の準備を積ませられたる立憲政體を肇め給へり。同年敎育に關して勅語を賜ひ、世道人心の向くべき範を示し給へり。

世界的の出來事としては二十七八年淸國と戰端を開くや、大元帥陛下として、大本營を廣島に進めさせられ、親しく海陸軍を御統率あらせられ、二十八年媾和條約成り、臺灣及び澎湖列島は　陛下の治下に屬せり。三十五年日英同盟締結せられ、更らに三十八年改訂締結あり、洋の東西に亙れる二强國手を列ねて世界平和に貢獻する光榮を有つに至れり。三十七八年に亙りて露國と干戈を交ふるに至り、我が皇軍連勝武威を世界に輝かし、遂に米國大統領の提議により平和成り、樺太を國境により、相隣する事となる。我が日本は既に世界に於ける一等國の班に伍するに至れり。四十三年韓國併合、曾て兩度軍を國外に進むるの止むなきに至れる如き禍根の發生屢々なりし其半島の地、今や平和の象徵たる旭日旗飜れり。

我が國が外に向ての進運につれ、國民の自覺次第に加はり、精神的維新の日に日に成され行くは誠に明治の御治世の光輝なり。

明治の十二年皇子嘉仁親王生れまし、二十年皇太子に立たせ給ひ、三十三年妃殿下御入內あらせられ皇孫御三所御誕生あらせたまふ。內親王四所の御方方にも皇外孫御四所數へさせられ、竹の園生いよいよ榮えさせたまふ。

我が國民は、御宏德を慕ひまつる事誠に赤子の父母に於けるが如かりし。御惱重らせ給ふと承るや、御回復を祈る純一無二の精神は至る所に充ち溢れた

り。あゝされど遂に明治四十五年七月三十日崩御あらせ給ひぬ。
世界各國より我が皇室、及び國家に致せる哀悼の誠意は誠に深厚なり、世界の輿論は　先帝を稱ふるに最も偉大なる君主と頌し奉れり。内外の尊敬と忠誠とを集めさせられし御稜威と御偉業とは永遠に世界の人類が仰ぐべき光なり。

傳へ承れる事共

先帝陛下には毎朝五時半、乃至六時に御起床ありて、東京、大阪、京都其の他樞要の地の新聞を御閲讀、八時御學問所に出御、御机上に堆き文書を御披見あらせられ、御親裁あり、午後四時までは必ず御執務あそばされ、誠に御登極當時より御惱重らせらるゝ迄變らせ給はず、寒暑の折柄、侍臣等より御休養の儀を御勸め申上ぐるに莞爾として肯かせ給ふのみにて、未だ一度の御避暑も仰出されざりき。

○

御齡八歳にならせられし年の六月、御父帝孝明天皇に伴はせられ、京師警護の各藩の諸兵が調練を御覽あらせられしに、一天かき曇り、空には雷鳴響き大雨降り注ぐにも係らず、赤地の振袖に、菊綴の御長袴召されし當時の祐宮様には、怖るゝ御氣色もなく御簾掲げさせ、御端近う御覽せられしを、總大將蜂須賀阿波守遙かに見奉りて「あはれ此君の御勇しさよ」と感涙せきあへざりしとぞ。

○

廿四年かの露西亞皇太子殿下御遭難頭部に重傷を負せられしといふ一大事變傳はるや　陛下には翌日京都に行幸あらせられ、京都に御着あらせらるゝや露國皇太子殿下の御旅館京都ホテルに御使を立てさせられ、其の夜は京都御所に御一泊、翌日親しく御見舞遊ばされて後　陛下の御馬車へ殿下を迎へさせられ、七條より汽車に御同乘神戸停車場より御馬車の御同乘にて御見送りあらせられ、夫れより露亞西

皇太子殿下は彼の國の軍艦に御召しになりたりといふ。此の時を知れる臣下は　陛下の御英斷の程、感佩の辭なかりしとぞ。さればこそ露西亞方の意も大に解け、露西亞の軍艦に　陛下を迎へ奉り、午餐を共にせさせられたる折の如きは、露西亞の皇太子殿下には恰も親子の如くに我が　陛下を御敬愛あらせられたりと申す。

○

二十七八年役の折、さしも天險を恃めりし旅順口要塞陷落の報達しければ、侍從長直に奏上しつるに聞し召されて後、龍顏うち曇らせ給ひければ、侍從長恐る恐る伺ひ奉りしに　陛下には「清國皇帝には定めし鬱悶に沈ませ給ひつやあらん」との仰せ言なりしと承る。君主とあらせ給ふ御同情こそ我れ等の伺ひ知るべき事ならねど、畏しき極みにこそ。

○

一天萬乘の御身に渡らせられて、なほ我れ等庶民が驚嘆の外なき程御質素にまし〱ける事は、世に傳へらるゝ處なりし。然るに此度の御大事に、大奧に奉伺したる諸大官は、常御殿の御質素なる御有様に今更のごとく恐懼したりと傳へらる。承る所によれば、僅か十八疊ばかりの御居間に、電燈も、煽風機も御備へなく、敷かせられたる絨氈の荒き手觸りに涙とゞめあへざりし老將軍もありしなり。

○

日々御政務を御覽せさせられて入御の後、詠み出で給へる御製、少くとも十餘萬首に上り何れも故高崎正風男に拜見仰付けられしと承るが、高く、大らかなる御調べに深く廣き大御心の自ら現はれぬる畏しこさに日露戰爭の頃、高崎男爵の手より、數首を普く示されしを拜し奉れる國民は申すまでもなく、軍に從へる將卒一度傳へ承りて、忠誠の念愈々厚く志氣一層振ひけるとぞ、此處に世に傳はれる數首を掲げて其の高風を仰ぎ奉らんとす。

記者謹記

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

皇太后陛下

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

御歌

社頭祈世

神風や伊勢のうちとの宮はしらゆるきなき世をなほいのるかな

新年海

いくさふねいかりおろしてあた浪もおとせぬ御代の年祝ふらし

新年山

鶴の羽のかさねて祝ふ年たちてやまさへゐめるこゝちこそすれ

愼獨

ひとりのみおもふ心のよしあしをてらしわくらむあめつちの神

光陰如矢

丈夫か弓つるにかけてはなつ矢の目にもとまらすゆく月日かな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

皇太后陛下の御坤德

皇太后陛下には聖代の國母とおはしまして、明治の大帝を輔けさせ給へるいと優しう、麗しき御心盡しのかず〳〵、はた國の爲民の爲思しやらせ給ふこといと深き御坤德の高きを、國民は誠に日月の並び輝くと仰ぎ奉るなりき。

明治の大帝隱れさせ給ひ、國民は悲哀の極に沈みつゝ、日夜大行天皇の御德を追懷し奉るにつけて、畏しこけれど　皇太后陛下の御心の程拜察し奉り、今更のごと、年頃傳へ承れる御德をとり集め思ひ出でぬるまゝを左に掲げんとす。

○

大行天皇御世にあらせられし時、大奧に御愛養遊ばされたる犬あり、御恩寵に狎れて伺候する者あれば飛び掛り戯れつきて何れも困ずるばかりなりしが主上の御愛犬の事とて誰れも上聞に達する事なかりし程に、犬はいよ〳〵思ひあがりて人もなげなる狂ひざまなり、此の事何時か太后陛下の聞召さるゝ處となり、陛下には斯くと主上に奏し給ひければ主上にもさはとて犬を退け給ひけるとか。斯くて或る時主上には元老の一人に此の御物話を遊ばされて、皇后宮のものゝ條理を正しうし給へるよしを仰せ言ありしと承る。

○

主上東北行幸の途に上らせ給ふを、千住驛に見送らせ給ひて御袂も分ちがたきまでいと懇に御別れの情を盡し給へるを、遙に見奉れる國民の、實に高きも卑しきも斯くてこそ、眞の情は其の中に籠りたりけれと感せぬものはなかりしと。

○

主上仙臺の御駐蹕が岡なる行宮に着かせ給ひし時、都より　皇后陛下の、過ぎし十三日の月次御會に詠ませ給ひし御歌とて聞え奉りし中に「年々郭公」といへる題にて

みちのくに鳴きやゆきけん郭公

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今年は聲のしげしともなき

又明治十一年北越行幸の時都に殘らせられて

大宮のうちにありても暑き日を
いかなる山か君は越ゆらむ
初雁をまつともなしに此秋は
越路の空のながめられける

と遊ばし給へりと

○

先帝御惱あらせらるゝや　皇太后陛下には夜も御寢ならずして、日夜御心こめて御看護あらせられけり。其の折、特に侍醫局の外なる靑山醫學博士、三浦醫學博士に拜診仰付けられたるは先例なき事にして、右は全く皇太后陛下の御英斷に由ると承る。

○

皇太后陛下の御父君故從一位左大臣一條忠香公には家庭敎育に御心を用ひられし御方なりき。まこと姫君は國母と備はらせ給ひ、婦德の範を垂れさせ給へる御事や。

それにつき曾て吉野行啓の途の御宿りにて、香川皇后宮大夫に御物語あらせられしを、大夫が謹記し奉れる日記より抄錄して左に掲げつ。

まだ幼くて父君の御許におはしましゝ頃、御館のほとり、商人の家近きところに物見を作りて御子達のもの見給はんためにせばや。とおぼし、家司を召して其の由仰せ給ひけるに、家司の申すやう物見なんどいへるものは富有なる人のなぐさみにものするものなれば思ひやませ給へかし。と答へ申しければ、父君宣ふやうこはなぐさみにはあらず、もはら御子達のためにものせんと思ふなりそは尊き人は賤き人の生活のありさまなど目のあたり見ることの稀なれば、下の情に通じがたく成長の後家人など多く召し使ひ、家政をもとり行はんとき、己のみをごりたかぶりて下をあはれむ心つゆだにも知らぬ人となりなんことのいたはしければ、市近き所に物見をつくりて貴賤の人のゆきき、商人の家業にはげむさまなど、目のあたり日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日に見たらんには中々にたすけともなりなん。と思ふなればとく〳〵つくれと仰せられてつくりにけり、やがて父君御子達をいざなひてかの物見にわたらせ給ひ、たふとき人、又いやしき人などのゆきゝを見せ給ふに、物見のむかひに染物屋ありけり、其の家業をいそしむさまを御覧じて父君のたまふやう、あれ見給へいとけなき者まで親と共にきたなげなる狀にて終日怠らず勵むぞかし、あはれ御子達も彼れが如く學問を勵み給へなど宣ひつることのありしが、このたびのいでましはいとも大きなる物見なりしと仰せごとあり、いと畏し。

○

陛下御學問は　内外古今に亘らせられ古事典例に至る迄深く通曉し給へりと承る。和學は御父君自ら御敎授ありける外に、伏見宮諸大夫若江景長の女薰子、飛鳥井卿、近衞關白忠熈公等御指南申し御入内の後は故八田知紀、高崎正風男に示させ給へりと御手蹟は初め一條家の御門流なる倉橋大藏卿、安部泰聰に學ばせられ、後、有栖川宮熾仁親王の御手を修めさせられ、漢學は初め久我家内人小島宇右衞門永秀の妹隆子に四書五經を學ばれ、後貫名海屋の子正祈を召されて蘊奥を極め給ひ、後に若井の某と申す老女御指南申し、御入内前後、久しく讀書習字の御相手申したるは岩倉具集の女智矩院洸子と云へる學問深く、和歌に堪能なる人なりしと、後稅所敦子を召され、其の後は小池道子御相手仕ると承る、御琴は生田流の達人福永らくに、抹茶は九條家大夫伊知地光烈に裏千家を、生花は家臣倉橋釆女に修めさせられたりと、

○

陛下には　御孫に當らせらるゝ、當代の皇子方を御鍾愛遊ばさるゝこと厚くあらせられ　今上　皇后兩陛下東宮御所に在らせられし頃のこと、皇孫殿下として御參内あるごとに、人形、動物の模型、又は汽車など種々の玩具を賜はせらるゝに、御三方には非常なる御喜びにて「おはゞ様よりの賜り物なれば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

破してはならぬ」と仰せられて御大切に御保存あそばさるゝ由に承る。

○

遠く明治十年西南戰爭の時、御手づから綿撒絲を作らせ給ひ、官軍は申す迄もなく、賊兵の負傷者にも賜はせられき。廿七八年、卅七八年兩度の戰役には、宮中の一室を繃帶製作所に充てさせられ、女官達を率ひさせられ、朝疾くより、夜は十時を過ぐる迄御手づから繃帶を卷かせ給ひ、將士が戰場に負へる痛手を蔽はん料にと、各地の野戰病院、豫備病院に下し賜へり、更にまた病院に行啓あらせられ、親しく傷病兵を御慰問あらせ給へり、而していと厚き惠みを蒙りてなほ癒えず、遂に不具の身となれる將士を憐れと思召され、總て敵味方の分ちなく義手義足を賜はりつ、而して二十七八年の戰後、年を經て再び御諚ありて、最に賜ひし義手義足を檢めさせ、更らに身に合ふよきものとして賜へりと承りぬ。そは常用せる義肢は時に改作せざれば、狂ひを生じて使用に堪へ難しと云ふ事を思し遣らせ給へるなり。

○

皇太后陛下が御憐憫の御心あつきは、吾等うけたまはりて、常に感銘する所ろなり。過ぐる四十三年の事なりとか、陛下沼津御用邸に成らせ給ひける折沼津在に、長壽の老婆あるを聞し召され、或日之を召させ給へとの御下命ありき。此老婆は年百三歳にて、矍鑠として家事を手傳ひ、曾孫の守りなどもする位なれば、僅かばかりの道歩行にて御伺候申さんと曰ひしも、疲勞して不敬にてもありてはと俥にて連れ來りぬ。

しかして御庭に莚をしき　陛下は御椽側より御物語りあり、ことにこの老婆が、初めて人力車に乘りしことを聞召されて、いたく驚かせ給ひ、種々有難き御言葉及び御下賜品あり、老婆は涙に咽びて御前をすべり出でぬ。斯くの如きは、陛下に於かせられては度々の御事にて、沼津行啓の折は、町内の老翁老媼には、必ず若干の金品を下賜せられ給ふが御例なりといふ。

記者謹記

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

吾等の覺悟

安井哲子

君に忠、親に孝ならざるべからざる理由を知る者が必しも忠臣孝子では御座いません。苟も國民教育を受けた者は誰でも皆之れを學んで居ります。而も世には忠臣孝子と稱せらるゝ者が少く、稀に其德行を賞讃せらるゝ人々の多くは、却つて初等教育すらも充分に受け得なんだ者であります、之れ皆忠孝の智識を有つて居たためではなく、君に對し親に對する至誠の情が外に表はれた者であります。

畏くも　先帝陛下御不例の報が公表されました時國民は上下を通じて驚愕爲す所を知らず、唯全心を捧げて速に御平癒あらん事を祈りましたが、此至誠の情は獨り吾々成人のみならず、幼い兒童にも亦表はれまして、知人の一幼兒の如きは毎朝目を醒ますや否や必先づ「天皇陛下の御病氣はもうお癒りになりましたか」とたづぬるので、その兩親は「實に吾國民の全身には忠義の血液が遺傳的に流れて居るのである」と、共に涙にむせんだと申されました。

繼いで悲しくも　陛下崩御の報に接しまして私共の學校では直に全校の生徒幼兒までをも集めて、校長から嚴肅なる訓話が御座いましたが、其折に餘り豐でもない家庭の一幼兒は嬰兒を脊負つた其母に送られて登園致しました。母は玄關まで參りますと、周圍を見廻しながら「ソレ御覽なさい、今日のやうなお日に「リボン」などかけて來る方は一人もありませ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ん。其故お母さんが赤い「ヅボン」などかけてはいけぬといつたのに」とたしなめながら直に其れを取り去りました。日々の生活に何等の餘裕なき此母、さして教育があるといふのでもない此母、如何なれば今日は平生にも似ずかく美くしく立派な母であるのかと、實に驚きに堪へませんでした。嗚呼至誠の情ほど人を美にし、又眞面目にする者はありません。

平生自身の周圍にのみ心を奪はれて居た吾々も、此不慮の一大事に遭遇して恐懼措く所を知らず、全く我を忘れて只管神に祈るの一事を見出した事は、國民一般殆全く一致して居りました事で實に驚くべき現象であります。之れ畏くも　先帝陛下の深き御仁愛に感激したる吾等の赤誠が凝つて此處に出でた者で、至情の凝つたる所には必神ありと云はれたさる方の言葉も今更に思ひ出されます。日々の新聞紙に依つて御聖德の餘光を拜し奉るにつけ畏くも　先帝を追慕し奉るの念は益深くなり、誰命せずして能く愼しみ、能く省み、質素眞面目に各其職に從ふといふ美風を生じて來ました事は、實に偉大なる御德の感化と申し上げねばなりません。

世の太平に慣れて、夏の夜もねざめがちにあかし給ひ、冬の日にすきまおほかる賤が伏屋をおもほし給ふ大御心にも報いまつらず、社會は次第に輕佻浮薄に傾き、人の心は益奢侈虚榮にあこがるゝ憂ふべき有樣となつてまゐりました今日、圖らずも崇高なる悲哀を實驗して、終に至切なる祈りとなり、玆に全く我を捧げて神佛に信賴する美くしい心情を刺戟せらるゝに至りました。かくの如く驚くべき現象が又他に御座いませうか。

さりながら一時に熱したる者は冷ゆる時があります。吾々は國の一大事に臨んでは、常に能く心を一にして國のため君の御爲めに喜んで其心身を擲つ覺悟を有ちますけれども、日常平和の生活に於きましては、其守る所が甚堅固でなく、眞面目の風に乏しいのは實に慷慨に堪へぬ次第であります。彼戰場の勇士が故鄉に錦を飾つたのは僅の間で、終には恥づ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

べき汚行に其名譽を傷くる者のあるのは新聞紙上に見る所であります。又曾ては親の大患に水垢離して只管其平癒を祈つた孝子が、親の病癒えたる後には忽苦勞をかける不幸者となつた例もあります。強い刺戟に感奮した一時の熱情は、人をして時に驚くべき行爲をなさしむる事がありますけれども、永久不變の至誠に勝る事は出來ません。後者は常に敬虔の念に充ち、身を處する事が常に眞面目であります。其故に平和の時にも國を思ふ事切に、常に忠實なる國民たらんとして最眞面目なる生活を持續致します人の子としても亦同樣で、常に親を愛慕する至情は健かな時でも、病める時でも變りはありません。只其場合に應じて表はれる形と程度とに幾分の差異があるばかりであります。

吾々は過去に鑑み、將來を思ふて、今こそ當に大なる覺悟をなすべき時であると思ひます。上に聖天子在しますとも、下に誠實なる臣民がなければ其國は榮ゆる事は出來ません、今回國民挙つて同じ目的の爲めに神に信頼したる至誠の情は、何卒幾久しく繼續して平時に於ける美くしい道德生活を實現せんことを切に祈るのであります。一度永久不變の神に結び付いた吾々の心は、必生活の眞意を味ひ得て、卑近なる目前の事にのみ注いで居た眼も、自然に深遠なるある者に轉ずる事が出來まして、單に吾衣食のため、吾發展のためにのみ働くのでなく、廣く社會の幸福、延いては人類全般の利益のために、此小さき身を捧げやうと覺悟するやうになるのでありませう。

曾て風景佳き英國ウエールスの或海岸で、多くの飲物や果物などの販賣許可を其筋に願つた者がありましたが、其土地の有志は風俗上面白からぬのみならず、かゝる愉快な運動場を下等の飲食場に變じ去るに忍びずとて大反對を試み終に許可を與へぬ事に決しました、社會の道德が高まれば高まる程、共同的の生活は益高尚愉快になる者で、かゝる場合に於ては、商賣の種類や方法なども自ら撰擇せらるゝに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

至るのでありませう。況して直接社會公共の事業に從事する人々が、吾衣食を得る事にのみ汲々として居ましては、其仕事の發展せぬのみならず、到底其業務に忠實なる事は出來ません。如何なる業務に從事する者でも、一朝事ある時には、誰も彼も皆其身命を國に捧ぐる事に躊躇せぬのは勿論でありますけれども、平時に於ても亦能く其心を盡して職務に從ひ、廣く他人の幸福と社會の利益とのために働くのは卽眞に忠良なる臣民でありませう。事ある時には誠意を盡し、平和の生活には大御心を悩まし奉るのは決して健全な國民ではありません。明治の御偉業が大正の御代に至つて益其光輝を添へんとするの今日、吾々は深く省みて益其心を清くし、身を愼しみて、平時に於ける美くしい道德生活を實現し、吾等自身は勿論、吾等に見習ふ幼き兒童をして將來の忠良なる臣民たらしめたい者であります。

先帝陛下に關する横井小楠氏の書翰

主上日々御出座議定參與被召出萬事被聞召候、私共罷出候所よりは玉座は一間半位八疊之御間に中央に高き御疊二枚敷き、御敷物(何か薄き一さ通りのものなり)外に御煙草盆(恰度私の物位なり)のみにて御近習衆も一と間隔て二三人も扣へ被居候、私共は御居間の下敷居の下とに罷出申候、參議一同に罷出候時も有之或は一人罷出候事も御座候、千餘年來絶て無之御美事に御座候、御容貌は長が御顏、御色はあさ黒く被爲在御聲はおほきく、御せもすらりと被爲在候、御氣量を申上候へば十人並にも可被爲在哉、唯々並々ならぬ御英相にて誠に非常の御方、恐悅無限之至に奉存候。

此書は在京中(文久の頃)小楠翁が主上の御英相を拜し欣喜默する不能して家鄕に宛てたるものなり、玉の宮居の如何に、當時御質素に居らせられしかを拜察するに足るべし。

耶蘇故山を偲ぶ

海老名彈正

△ナザレに對する基督の親しみ

基督はナザレに長く生活し、その公生涯に入るまで三十年の多き星霜生活し給ふた。彼れに取りてナザレは寔に懐かしい所であつたらう。明媚なる山川草木も花鳥風月も皆舊知己で、その家も長く住み慣れてゆかしかつたらう。其家は我々の假住ひとは違ひ、自分の家、否父の家であつたらう、恐らく祖父曾祖父の代からあつたのかも知れぬ。家そのものが既になつかしかつたらう。況んやその家には母あり兄弟があつた。又同じ村には親戚もあれば、姉妹の片付いて居た家もあつた、然らば可愛いざかりの甥や姪もあつたに違ひない。兎に角ナザレ村に對する基督の親しみは並々ではなかつたらう。又彼は幼き時より、會堂に行き神の言葉をも學び、その朋輩達と共に並み〳〵の教育を受けられた。どう見てもナザレは基督にとりてなつかしい天地であつたらう。ルナンに云はすると、他所の猶太人とは違ひ、ナザレの娘共は奇麗で且つ快活であると、聖書に「ナザレより何の善人出でんや」とあるは、ナザレの村人が劣等なりと云ふ譯ではない、恐らくは片田舍であると云ふことであらう、何時の頃からそう好い人氣になつたか知らんが、兎に角ナザレの村は善人に富んだ所と思はれる。

乍然之れが基督を故山に導いた動機ではない。基督カペナウムにて傳道して居られた時、反對の聲は前後に起り、四方八方から彼を攻擊して如何ともすることは出來なかつた。此時基督の胸中に閃きしも

のは故山の人であつて、自分を受け入れる人々は恐らくナザレ村民の外はあるまいと云ふことであつたらう。

△理解なき故郷

玆に又今少しデリケートな問題があると思はるゝ何ぞや、彼れがカペナウム傳道眞最中、辯難攻擊の唯中に、ナザレより基督の母君と兄弟とが來られた其目的は基督が狂氣して居らるゝと聞き、之を連れ返るためであつた。玆に已むを得ざる一大衝突が起つた。彼は神の使命を重んじて福音を宣傳して居らるゝ、狂氣でも何でもない、夫れを連れ歸らんとするは全くの誤解からである。基督にとりてこんな苦痛はなかつたらう。「我母我兄弟我姉妹とは誰ぞや、我の父の聖旨に從ひその事を行ふものは是我兄弟なり、我姉妹なり我母なり」とは此時の基督の言葉である。之れ眞に斷腸の言である。此時母に從ひて故郷に歸るべきか、此民族の敎を如何せん。玆に於てか基督は斷乎として母に背き給ふたのである。之を聞いた母君もさぞ辛く感じられたのであらう。しかも之をいはねばならぬやうに餘儀なくせられた基督の心事こそは實に九腸の寸斷するばかりであつたらう。斯くて母君達は目的を達せずして歸鄕せられた此一事は基督の如き優しき美はしき柔和な方にとりては、實に堪ゆべからざる苦惱であつたらう。此母君との衝突は實に學者やパリサイ人との衝突とは違ふ。キッパリと母君の請求を卻けられたものゝ、そこは骨肉の情である、半宵人靜まりて淋しく、故山の母君を偲ばれし時には眞に涙を絞るものがあつたらう。一度鄕里に歸りて見たい。母君や弟妹にも逢つて話して見たい。親類も居る竹馬の友も居る、彼等の中に責めて一人や二人は我が心事を汲むことの出來る者も居るであらう。責めて彼等なりとも私を受くるならば如何に心持ちよく傳道が出來ることであらう。しかも今や我は八方塞がりである。と之れが基督がそゞろに故山を偲びて、ナザレに歸られた

大なる原因であらうと思はれる。

△絶望の極

基督は故山に歸られた。何處も同じ歸省は父母兄弟を喜ばしめる、親屬朋友を喜ばしむる。彼も勿論大に歡迎せられ給ふた。基督の母君や兄弟達は斷じて基督の心事を疑ひ給はぬ、山師とか一時を籠絡する人とは絶つて思ひ給はぬ。が然し基督は信仰上大にレールを外れて居らるゝと母君は思ひ給ふた。そこには渉るべからざる渠溝があつた。云ふに云はれぬ困難があつた。之れは實に致し方のない處で、親子兄弟と雖も道德上宗教上の信念の相違に至りては衝突を免れぬ。しかして又世の中に此位痛切なる悲劇はない。基督の母は決して普通の村婦野人ではなかつた。彼女は確かに一角の見識を持てる婦人であつた。何となれば見識なき婦人なれば此場合我子に從ふ筈であるが、母君は決して徒に盲從されてをらぬ。然して弟達も皆母君の意見に從ふて居らるゝ。彼の基督の弟ヤコブは基督の死後は教會の主領として、エルサレム教會の柱石となり、ペテロやパウロも一目おいてをつた程の大人物であつたが、彼は尤も堅い保守主義の人であつて、痛く母の性格をうけてをつた、此母君が基督には徹頭徹尾反對であつた。初めは母君が基督を連れ歸らうとして失敗し給ふた。今度は基督の方から歸つて母との間を融和しやうと試み給ふた。故山は基督を歡迎した。初めから反對ではない、彼の如き天下の公人をナザレの寒村から出したのは村の名譽であつた。されば基督は初めて知己を得しかの如く感じた位に村人は彼を歡迎した。彼等は會堂を開いて基督を迎へ、教壇に立たしめた、決して初めから冷遇した譯ではなかつた

然るに段々村人と交り、互に意見を交換するに當りては、彼我の間に如何ともする事能はざる軒輊のあることを發見した。基督より見ればナザレ人は勿論、彼の母も兄弟達も皆オルソドックスで、とても我が福音主義は彼等に容れられざるものであること

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を知り給ふた。しかして亦彼等は基督を目してモーセの律法を破り、先祖代々の信條をこわすところのベルゼブルに憑かれたる人なりと思つた。結局村人は異端者として彼を排斥したのである。玆は基督の殆んど最後であつた。もういかん、天下殆んど我が福音を知り得るものなし、彼處此處一時は我事成らんとするが、間もなく衝突する、此地こそはと思つて滿腔の希望を抱いて來た故山、ナザレの村民こそは、我が性格も略ぼ知つて居る事ではあるし、幾人かの人々は我と同情同感になつて我運動に參加するであらうと思ひきや、一人も彼に與みするものはない。のみならず、彼の家族も親戚も彼を捨てゝ村人に屬して仕舞つた。嗚呼人世斯の如き、悲劇が他にあるべきか。

△希望の閃めき

此時この堪へられぬ苦痛の中に、彼の心は希望の一大光明を見給ふた。絶望、悲哀の中に一道の活路を見出されたこゝに塞りたる彼處に開くる所以である、史上の事實は忽焉として彼の目前に閃いた。基督は史上の例證を擧げて村人に示して宣はく、「我誠に爾曹に告げん、エリヤの時三年六ケ月天閉ぢ國中大なる饑饉にして、イスラエルの中に多くの寡婦ありしに係らず、エリヤは其の一人だに遣はされず只シドンなるサレパタの一人の寡婦に遣されたり。又豫言者エリシヤの時にイスラエルの中に多くの癩病人ありしが、その一人だに潔められず、唯だスリヤのナーマンのみ潔められしにあらずや」と。之れ正しくイスラエルに絶望を告げて異邦人に恩寵を給ふたと云ふことである。一道の活路とは何ぞや、即ち異邦人傳道と云ふことである。今やカペナウムにても阻礙せられナザレにても阻礙せられ給ふた。最う駄目である、此上は異邦即ち外國傳道の外はない。世界の人即ちユダヤ人以外の人が神の國の福音を受くべきであると、此の考が基督の心にサッと閃いた。豫言者は其故郷、其親戚其家族の外に於て尊ばれざ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るはなしと、此場合基督は實に八方塞りの極點に達し給ふた、茲に於てか基督は心機一轉、懷かしき母君と弟妹とに訣れ、三十年來夢寐にも忘れ給はざりし故山を捨てゝ、暫時異邦に流離し給ひ、徐ろに最後を決せんと定め給ふた。彼もナザレに失望せられし時は流石に悲観せられ給ふた。カペナウムの末路を歎きコラジン、ベッサイダにつきて絶望の聲を發し、寧ろソドム、ゴモラの審判がやすいと歎息せられし時は、最早ガリラヤ地方には彼を容るゝべく寸地も餘さなかつた。エルサレム上洛の最後の決心の準備は此一刹那に出來給ふたのであらう。即ち故山の失敗が、最後の大英斷の動機となつたのであらう

△死後の榮え

終りに一言したいのは基督の御在世の間は母君も兄弟達も誰一人として彼を信ずるものはなかつが、基督の死後卒先して信仰の眼を開き、篤信なる基督の羣儕となりたるはその母君と兄弟である。エルサレムに初代の信徒が集つた時に、イエスの母と兄弟達も共にありきと、あるを見ると、一家眷族皆夙に基督の精神に感じて、彼を信ずるに至られたことは明白である。茲は又何とも云へぬ深い人心の微妙ともいふべきであらうか。我々の間にも斯る經驗があつた。曾て熊本に於て基督教を信じた時、數十人のものは皆家庭の迫害をうけた、社會の迫害よりも先きにまづ家庭の迫害をうけたものである、金森君の如きは殊に峻烈なる反對を受けたのであつた、而して殆んど逃走同様に熊本を去り、京都同志者に行かれたる時、我々は君を渡船まで送つた、其時一人の婦人が學校まで密かに人目を忍んで來たのは、實に同君の母君であつた。實に母親の情愛は天地の神にもなぞらへるべき深いものがある。果せるかな後日我等が社會に出でて旗幟を擧ぐるや、眞先に我等の儕輩となつたものは母達であつた、こゝは古今東西の別なく、同じく精神界にたつものゝ經驗する所ろである。更に一事の傳ふべきはナザレの村である。

今やパレスチナ地方にあるユダヤ人民は實に衰亡して其住民は、敗德非倫、勤勉力行の精神を缺き徒に他國の行旅者に金錢財物を貪り、之れが千古の聖人を出したる國土人民かと思はしむるとは彼地に遊んだもの丶等しく語る處であるが、唯だ一の小村ナザレ村は今日に至るも人民の美風良俗他に比なく、容貌も又他のユダヤ民族と違ひ優美端麗にして人をして其何故に然るかを怪しましむると云ふ。而して更に怪しむべきは、基督の時代には此ガリラヤ地方人口五千位を有する都邑約二百ばかりもありしが、今日は何處を見てもわけ難き荒凉の野原であるが、獨りナザレの村のみは二千年に垂んとする歳月を閲して昔に變らぬ面目を保持しつ丶あると云ふ。さればナザレは人物も自然も昔の儘である。嗚呼之れ皆ナザレのイエス及び其母君マリヤ兄弟ヤコブの故山なるかな。我等は此珍しき史上の事實を見て、神に感謝せざるを得ない。

バンヤンの一生

ジョン、バンヤンの自叙傳、「恩寵溢るゝの記」の結辭の一部にかやうな事が記されてある。

「私は當時わが心情にある七つの憎惡を見出した。一は不信仰に傾くこと、二突然基督の現はせる愛と仁慈とを忘れること、三律法の行爲に偏すること、四祈禱中に想ひ亂れ心冷かになること、五祈れる事に對して氣を付けることを忘れること、六動もすれば持たぬ故に不平を鳴し、持るものを亂用すること、七神が私に命じたまへる事は何にもなす能はず、却つてわが敗德は縱に振舞ふこと、善をなさんとする時、惡が私に出現すること。

斯る事をば私は絶ず見たり感じたりした。それに依つて惱され壓着けられたのであるが、神の知慧はわが善のためにそれを用ひられた。第一それは私に自らを嫌ふべきことを敎へた。第二それはわが心情に頼ることを妨げた。第三それは凡て生來の義が不充分なることを私に信ぜしめた。第四それは耶蘇に飛びゆくことの必要を私に示した。第五それは私を後押して神に祈らしめた。第六それは注意して目醒めてゐる必要を私に示した。第七それは基督を通して私を助け、この世を通し私を助けんことを祈るやうに勵ました」

凡てをかく思ひなす事によつて、バンヤンの一生の出來事は悉く恩寵に化したのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

消毒の効力ある香氣高き

シッカロール

定價壹個に付
大罐 金五十錢 送料三個迄 金八錢
小罐 金十錢 同拾貳個迄 金八錢

小兒の皮膚は軟弱てあるから股間や腋窩或は顎下などの皮膚と皮膚とつきあふ所は何時ても糜爛を起して苦むのであるが夏になるこ其上に強く發汗するから殊に甚しい其汗疹や糜爛が愈々甚しくなると炎衝を起し其れへ黴菌が侵入して種々の濕疹や多發性癤瘡など丶云ふ厭らしい皮膚病が出來續いて淋巴腺が腫脹して治療は益々困難こなり虛弱な小兒は終に膿毒症を起して死ぬるのである世間の親達は之に天花粉や亞鉛華澱粉など撒布て極く容易く思ふて居るが死んだ後ては取り返しがつかぬ夫て適當な藥は最近の處方に係る「シッカロール」に限る此の「シッカロール」は汗疹や糜爛に著しき効能のある許りてなく皮膚の色澤を麗にし且強くすることは專門諸大家の口を極めて稱讚する所てある論より證據試みに使用さるべし無論婦人の皮膚も小兒こ同樣であるから此の「シッカロール」を使用なさるべし

東京市神田區美土代町四丁目五番地
小川町電車停留所前
電話本局一六四八番
振替貯金東京一四九五九
和光堂藥舖

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●初號十月一日發行●

國民倶樂部

理想的雜誌出

▲雜誌「國民倶樂部」は、これ迄にない多くの特長を以つて生れます。すべてが眞面目にして實際生活に有益な記事のみではありますが、清く、温く、美はしい情味はこの中に充ち溢れて居りますから、所謂眞面目な雜誌のやうに無味乾燥で肩の凝る恐れは斷じてありませぬ。

▲敬虔なる生活、義しき努力による進歩の生活、如何なる境遇に處するも尚ほ希望に活くる慰め多き生涯など、即ち誠實なる紳士淑女の理想とする偉大なる國民的生活の經驗こそ、新しき使命を以つて生まるゝ本誌の讀者が味ふべき尊き特權であります。

▲雜誌「國民倶樂部」出でゝ眠るが如き今日の雜誌界はその面目を一新し、理想的雜誌の出づるを待てる紳士淑女は、始めて滿足せらるゝであらう。高尚なる氣品の中にも、潔き燃ゆるが如き熱誠を藏むる偉丈夫にも似たる本誌は、同じく高尚を喜び至誠を愛する諸君の熱烈なる歡迎の必ずあるべきを信じます。

▲定價金十錢（郵税一錢）▲半年（六冊）前金六十五錢 ▲一年（十二冊）前金一圓二十錢（郵税とも）

發行所 東京小石川區大塚仲町卅六 國民出版社 振替話金東京 二三一六四番

改元所感

明治より大正に入る婦人界

鳩山春子

△缺點を知るは改良の第一歩

我れ我れが一家の家長を失ひし時、悲しみはさる事ながら、徒らに嘆いて斗り居つては、家の中の治りがつかなくなつて終う。畏くも允文允武に渡らせられし　先帝陛下の崩御に就て、國民の悲歎は申すも疎かな事ながら、それがため爲す無きに過すのは却つて不忠の至りであると思ふ。かやうな時代と時代の變遷に際し、過去の時代に行はれなかつた事を新時代より改めて行く事にお互ひに努めたいと思ふ。それには先づ明治時代に出來なかつた事、即ち其缺點を知る事が、改良の第一歩であると思ふ。

△黒幕を離れよ

明治の婦人界は一言にして申せば、未だ全く進んでは居らぬと思ふ。近頃婦人問題等云ふ聲が囂しいが、婦人問題といふ意味をも了解して居る者が少くはあるまいか。これと同じく婦人會等も數多くあるにしても、婦人自身が其の必要を認めて働らいて居るものは尠く、多くは男子が黒幕に在つて、婦人は只その命令のまに〳〵働いて居るに過ぎぬ。それならば黒幕に居る男子が婦人界の事がよく解つて居るかと云ふと、多くは官界の非職の人々で、活社界の先驅者となるには、老年でもあり、智識も後れて居る。その上に婦人會の役員と申せば矢張男尊女卑の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

考を持ち居り、家庭に於て夫に從ふ如く婦人會に於て何事も男子の指圖を待つものと考へらる人が多い必ずしも婦人の爲め、社會の爲め、大に働かうといふ熱心があるとか又は責任を持たるゝとか自尊心があつて自ら男子を使ふ技倆を具ふるとか云ふ人は極めて少ないやうに考へられます。よし技倆はあつても自ら所信を主張するなどは女らしくないと考へらるゝ樣であります。萬事男子の指圖によつて動くので、遂には本末を顚倒する事などを招くのである。最初は拙くまた極く小さくても、先づこの黒幕を離れる工夫をしなければ、婦人界の進歩は到底望まれない。

△社交と事業との混同

どうも今迄の婦人は社交と社會事業とを混同して終うので、不都合を生ずるに至つた。交際は圓滿を主とするのであるから、その場合には商賣の話や、理屈ぽい事は成る可く避けて、何人にも解り易く、興味ある事を語つて、無聊を慰めたらよろしい。然し事業となると委員會に於て或は定款を變更するとか、慈善事業を起すとか、いろ／＼事務に亘つた相談をしなければならない。その席に於てはお互ひ遠慮なく所信を發表して、もし意見が合はなければ、充分に鬪はすもよく、正しいと思ふ事はどこ迄も主張するがよい。その代り人の說が當を得て居ると思へば、潔くこれに從つたらよろしい。又公けの會議に於て多數に服從する事。一旦決定した事を屢々變更するとなき事、役員會で意見を鬪はした事は其時限り忘れて毫も交際に影響を及ぼさぬ事、等を心得べき事であります。然るにかやうな場合意見を云ふのは女らしくないとかお轉婆であるかの如く思ひ、只笑つて頭斗り下げて居る事を以て女らしき事と考へられて居ります。婦人自ら斯く考へらるゝのでなく、黒幕の男子が之を奬勵いたし所謂女らしくないと云ふ事を以て唯一の武器として居らるゝ樣に見へます。お轉婆と云へば既に役員會を開くなどが女ら

しくないかも知れない。一旦役員會でも開かうと云ふ以上は、よくその性質を知つて、あの方の談を駁したら、失禮ではないかしら、此の人に反對したら憎まれはしなからうかなどゝいふ私事を捨てゝ、公事の爲めには正々堂々と事を行つたら如何でせう。先頃も獨逸に留學中の次男から屆いた日記の中に、彼の國の人が日本婦人の微笑といふ事に就て論じて曰く、日本の婦人は度外れに微笑するが、それが少しも快濶には見えぬといふ樣な事を申されたので、少し負け惜しみも出でゝ一と通り辯護したが、後で考へて見ると幾分彼の國人の云つた樣な缺點がありはしないかと書いてありました。勿論微笑するもよく、同じ反對するにしても上手に思ふ事を發表する事が出來たら、なほよろしいが、羞かみ笑ひや思ふ事も人前では發表しない事を奬勵するといふ事は、確かに間違つておりますから、今後の婦人界ではかやうな事を改めたいものであります。

△研究心の鼓吹

婦人界が明治時代に進まなかつたと云ふのは、畢竟婦人自身が事に當ることなく、何時迄も男子に依賴して居つた爲めであると思ふ。それ故先づやつて見るといふ事が何より大切であります。自ら事に當れば、ぼんやりはして居られぬから、研究心も起るといふもので、婦人の頭も次第に働らくやうになります。また世人も批難攻撃を止めて、婦人に暫らく事を任かして見たらばよいのである。一體五年や十年の短かい間の成蹟を見て事を批判するのは誤まつて居る。女子の高等教育でも、その効果如何は、その高等教育を受けた人の手によつて育つた次代の國民が一人前になり、社會に出でゝ少し働いた曉になつて始めて分るので、五年や十年間の家政の執り方育兒の方法、乃至は教育の模樣を見て云々するのは早計に過ぐる嫌ひはないかと思ふ。釋迦や孔子が婦人を人並みに取扱はなかつたと云ふのも、畢竟自分

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の目に映る婦人の有様から割出して申した言葉に過ぎぬので、それが婦人の運命として定まつて移らぬものではない。やはり教育し、自ら努力して次第に啓かるゝので、その進歩の第一歩としては、物の責任を負ひ、自ら研究して其の道を啓いて行くといふ事にあるのではありますまいか。

△道徳の維持者としての婦人

今日西洋では多くの婦人が獨立して生活しなければならない場合に遭遇して居るが、日本はまださう結婚難があるのではなく、多くの婦人は結婚して、よりよき子孫を遺すこと、卽ち人類の維持者となる事も大切であるが、此處に一つ婦人に大なる使命ありと覺ゆるのは、道徳の維持者となる自覺を持つ事である。男女を比較すれば、體力、才能に於ては或は男子の方が大器晩成であるかも知れぬが、動物性丈けは確かに婦人の方が少く、間違つた慾に惑溺するやうな事は少い。或る書物に「男子の虚榮心は偉がりたい事であり、女子の虚榮心は外貌を飾る事である」とあるが、女子が外貌を飾るといふのは、畢竟男子に喜ばれん爲めで、男子がそれを好むからである。それ故結婚でも男子は女子を外貌で撰ぶが、女子はも少し眞面目に男子に就て考へ、外貌よりも寧ろ頼もしいとか、實力とかいふ方を望むといふ風がある。もし婦人に精神教育を施して行つたら、劣情に打ち克ち、必ず人類を高尚に清潔に導いて行く上に、大に力ある事ではあるまいかと思はれる。

矯風事業の今昔

小崎千代子

△最初は服装の改良

私共が矯風會設立の必要をより〳〵相談し始め

たのは、明治十九年頃であつたかと思ひます。先づ服裝の改良からでも始めやうといふので、私共數人の者は、その頃世間の人は名も知らぬ束髮に結び、活潑な故潮田千勢子さんや、群馬の前衆議院議員岩佐次郎さんの奥さん等は、筒袖に着物と同樣の布で袴のやうなものを仕立て、帽子を冠つて歩いて、大分世間の注目を惹きました。何しろ私が日本人の束髮を見たのが、十八年でありましたか、岩佐さんの婚禮の時が始めてゞ、その時お嫁さんの髮はミス、ミリケンといふ今でも女子學院に働いて居る西洋婦人が、前夜から結んでくれたとて、三つ組に編んだのをキリ〳〵と頭一パイに大きく卷いて居られるのを見て、何といふ奇體なものだらうと思つたのでした。この方の婚禮は安中でありましたが、誰れもウエデング、マーチを奏く人がないからとて私が頼まれ、乳呑兒を連れて夜の一時に萬世橋から出る馬車に乘つて、翌日の四時頃に安中に着いたのを覺えて居りますが、その頃の事を思ふと進まない樣でも萬事が驚くやうな進歩であります。

△一夫一婦の請願

その後矢島先生なども力を添えらるゝやうになり矯風會といふものが創立せられ、二十三年國會開始と共に、最先きに出したのが一夫一婦の請願でありました。これは國家の基礎の家庭を清める爲めには、どうしても一夫一婦が實行せられなければならぬと思つたからでした。以來毎議會提出致しますがまだ通過致しません。然し始めは一笑に付せられて省られなかつたものが、昨今は次第に眞面目に取扱はれ、熱心な贊成者が次第に殖えて參つた丈けでも非常な違ひと思ひます。

△禁酒禁烟の法案

次で汽車電車内の禁烟、未丁年者の禁酒禁烟に關して請願致しました。その爲め東京市內の電車は初めから禁烟が行はれ、汽車の中も昨今次第に行はれ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て參つたのは喜ばしい事であります。また未丁年者の禁烟法は通過して、家庭と共に法律を以て之れを取締る事が出來るやうになりました。未丁年の禁酒案もどうか近き將來に通過いたさせたいものと望んで居ります。私共の主義は敎育、宗敎の力はもとよりでありますが、法律の力に訴へても、社會の弊風を一日も早く一掃いたし、淸潔な風俗を作り度いと望みますので、殊に誘はれ易き未丁年者は法律上からも充分に保護して成長の萌芽を害はないやうにと願うのであります。每度極端な、いらぬお世話をやくやうですが、それが次第に行はれて來るのを見ると、正義の勝利は遂に來ると信ずるのであります。

正義人道の爲の戰ひ

今年矯風會は第二十回の大會を致しましたが、議事は議事法によつて秩序よく運ばれ、役員の改選も公平無私に行はれ、全國から集つた百に近い代表者は、その地方地方に相當の働らきをして、着々その効果を擧げて居る報告を齎らして參りました。然しこうなる迄には人知れぬさま〳〵の困難があつたので、これが基督敎主義でなければ、とつくに瓦解して居つたに相違ひありませんが、たとへ感情の衝突があつても、神の名によつて祈る時私を捨てゝ公につく事が出來、またどんな陰のつまらぬ働らきでも、これに喜んで奉仕して行く事が出來て、今日になりましたので、今後もその効果を急がず、絶えず正義の爲め、人道の爲め、戰ひを續けたいと思つて居ります。

來らんとする社會に望む

廣岡淺子

△社會の先輩の覺醒が必要

明治の御代は短き四十五年を以て終り、新らたに大正の御代は生れて參りました。先帝陛下の御偉業を懷ひ奉るにつけても、大正の御代は之れを繼承して、更らに國運の發展を計らんが爲め、國民が一層奮起致さなければならぬと存じます。昔から時代は種々樣々に移り變るが、然し孔子の云はれた修身齊家治國平天下といふ道義の根本には變りなく、天下の平ならんを希ふものは、先づ我が身を修める事から始めなくてはならぬ。

今日社會では靑年の修養といふ事は大分やかましく申すが、自分は如何にして修養しなければならぬかに就ては餘り云はぬ樣である。然し社會の先輩が修養に志せば、靑年は自ら淸まるものではなからうかと思ふ。この故を以て私は壯年、老年の者に向つて、殊に醒めんことを希ふのである。且つ私は女子であるから、先づ我が同性に向つてこの急務を訴へたいと思ふ。

△修身の道

身を修める事、即ち修養は如何したらばよいかといふ問題になります。詩篇百三十五篇の十五節から十八節に「もろ〳〵の國の偶像は銀と金にして人の手のわざなり、その偶像は口あれど云はず、目あれど見ず、耳あれど聞かず、またその口に氣息あることなし。これを造るものと、之れによりたのむ者とは、皆これに等しからん」。と云ふ聖言がありますが、偶像敎とか、實踐倫理とかいふ人間の手のわざや、智識から生み出したもので、人格を無限に高めやうと思つても望まれぬ事である。人間特有の奇しき靈性を發揮して、神に近付かうとするには、どうしても神性を備へて此の世を導かれた基督の敎へに賴らなければならぬと思ふ。私は僅かに三年前から基督の敎義を聞き始めたほんのベビーであつて、その深奧を語る事は出來ないが、かやうな頑固な何人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の前にも頭を下げない、しかも六十歳の老婆が、この三年間に非常な變りやうをしたのを自分も認め、人も認むるその事實を以て、自分はどうしても基督敎ならざるべからずと思ふのであります。基督敎は外國の敎へだとか、基督敎にはかやう〳〵の弊があるとか、基督信徒でもこんな人があるとか云ふ批難は理由なき事で、無學の私でもこれを駁す事は容易でありますが、自分はさやうな事に爭ふ暇も惜しくどうか神から與へられた人間らしい人間に早くなつて、國家の一員として將來益々働らき度い希望が一ぱいであります。

△家庭の聖化

何にしても個人個人が立派に磨かれるのが、根本の根本でありますが、次には社會の基礎をなす家庭を清める事が大切であります。誠に嘆はしい極みながら、今日我が國の多くの家庭には不潔な空氣が漲つて居り、その爲めに夫も不快であり、妻君はヒステリーになやみ、子孫は不健全になつて行くのであります。これを一掃しなければ、我が國運の發展などは望んでも及ばない事であります。忠誠なる日本臣民は國家といふ事に就て、心身を誠に輕しとする念は、先天的に深く持つて居つて、一朝事ある曉にはさやうの念が溢れ出づるのである。然し家庭の不潔が第二國民を害ひつゝあるといふこの國家の一大事を、何故に看過するのでありませうか。否看過せざるべからざる程何人も同様の痛みを持つて居る。斯くの如き家庭を潔めるには、只神の前に一男一女が結ばれて、婦は主に服ふ如く己れの夫に服ひ、夫は婦を己のが身として愛して、眞に一夫一婦を實現するより外に道はない。かゝる神聖なる家庭に育つ子孫が、いかで墮落しませうか。彼れ等は益々靈性に進み、高潔な生涯を樂しむ事が出來る人と生ひ立つ事が出來るでありませう。

△神の王國を臨らせよ

既にかやうの家庭が社會の基礎となれば、治國平天下は期せずして行はれる事が出來ます。然し婦人は齊家のみを行ふて足れりとせず、進んで國家問題にも常に出來る丈けの力を致さなければなりませぬ例へば平和問題の如きは、殺伐なる男子よりも、婦人のやさしき心情が流露して、始めて効果を奏するものであります。其の他慈善事業はもとより、世の中を精神的に導く上の諸種の事業は大に婦人の力によつて營まれなければならぬと思ひます。平天下以上に、神の王國を地上に建てんが爲めに、我れ我れの身命を捧げて働らかねばならぬと思ふのであります。

諒闇中の朝鮮

在朝鮮　廣瀬咲子

「前略」先帝御不豫の報を聞くや、朝鮮人等上下皆己のが信ずる神や佛に、一心不亂に祈願を籠め、只管御平癒を祈り奉り候事、內地人に劣らぬ程にて、その赤心は見る人の目にも誠にいぢらしと思はせ候。

然るに遂に崩御の報聞え候折は、實に哀悼悲痛、かしこけれど眞に慈父に別れ奉るが如くにて候ひきこれ御聖德の洽き、この新領土の民の心にも、深く深く感銘いたし居る事明かにて候。きのふけふ物賣のヨボや洗濯するオカミさん連に至る迄皆白衣の胸に蝶形の喪章をつけ、多くの地方を存じ候はねども朝鮮のうちにても田舍と云はるゝ當地さへ（京釜鐵道勿禁驛）人民皆謹愼いたし居候。

今日も家に尋ね來り候ヨボに一體この邊りの人達は大喪の事は心得て居るかと尋ね申候處、ヨボ氣色ばみて「以ての外の仰せ、誰さてこの場合を謹ますにゐませう。草刈る子供、糸くる媼に至る迄、其至誠のある所は胸の喪章にも御覽じ給へかし」と申候。

現天皇陛下は先年當地にも御出で遊ばされ候て、京城上下の民は龍顏を拜し奉り居候故、御聖恩のいやまし洽からん事を信じ、いと靜穩に御座候

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ブース大將逝く

記者

宗教界の偉人、貧民傳道界の最大恩人たるウヰリアム、ブース大將は八月廿日英京倫敦に於て、八十四歳の高齢を以て永眠せる旨の悲報に接したり。大將は人も知る如く救世軍の創設者として、人間の靈肉併せて救ふを以て、神の御心とし、從つて基督の精神の下に事務的に其の事業を運び、現社會に於て最も進歩せる組織を有せる軍隊に則り、今より四十七年前救世軍を組織せられたり。然れども大將の貧民傳道は遠く其の以前に行はれ、齢十五歳にして基督の僕となりたる時より、晝は工場に行き、夜は貧民傳道を務めたりといふ。

大將の生涯は神の僕として奮闘せりといふ一事を以て覆ふべし。數年前我が國に來遊せられたる際、招待會の席上、島田三郎氏は大將に向つて、如何にしてかくも高齢にして壯健なりやと問ふに答へて、一飯を控目に喰ふ事、二仕事を轉換する事、三樂んで職を持つ事と。今より數ケ月前我れ等は大將の失明せられたる由を聞き、活動的の大將にしてその境遇に處するは、一倍の困難なるを思へりしが、またこれ或は更に深く祈禱の生涯を樂しむを得る神の攝理なるべきかを思ひて只管大將の祝福を祈りしが、劇甚の活動より絶對の安靜に入りし生活の急變は、遂に死期をかく速かに誘ふに至りしといふ。

大將の夫人が稀世の賢婦人なりしは世の普く知る所なり。大將の講演には、常に今尙「我が美しき妻」の言葉を聞かざる事なきは、夫人がいかに内助の効多なりしかを語りて餘りあり。大將が頃日病を養ひたるハッドレー、ウッドは先に最愛の夫人が永き眠りに就ける紀念の地なりしといふ。今や救世軍の父母共に此の世に莫し。然れども彼れ等の靈は永久に其子孫の働きの上に幸せん。

維新前後

法學博士　杉亨二

博士は統計學の泰斗として世に知られて居ります。文政十一年長崎に生れ、仁孝、孝明、明治の諸帝を經て、今上天皇に至る迄四代八十餘年間我が國文化將に生れんとする最も多事多端なりし國家の出來事を目撃して、今日に及んで居られます。近年明を失ひ小石川指ヶ谷町に閑居して居られます。明治の聖代終りを告げて、大正に移らんとする時、我が國史上最も紀念すべき維新前後につき、記臆を新らたにせんとし、博士を訪ふてその談を聞かうと乞ひました處、數年前自ら口授して草せられたるものを取つて與へられました。これはその一節であります。因に故文學博士高山樗牛氏は博士の女婿であります。

○

世は三百年ばかりの太平にて、江戸市中鐵砲の音も聞えぬ靜謐の世の中に、嘉永六年六月、俄然米艦渡來して大騷ぎとなり、江戸市中鼎の沸くが如く、諸大名は持場々々に出張を命せられ、家々紋處の幔幕を打廻し、的、吹流、弓、鐵砲、鎗等を備へ、スワと云はゞ打つて出でんの勢を示し、品川邊より築地の濱は土俵を築き、大砲を構へ、晝は人馬馳せちがひ、夜は篝火でなか／＼の騷ぎであつた。夫れに可笑しなお話だが、山の手の大名が築地の濱まで大砲を曳き出すのに、大砲は大きし、砲門は小さし、それに台車は井戸車位で、之れを曳き出すのに大勢係り、途中泥上に支へられ、晝夜かゝつて築地芝濱邊へやう／＼曳き出すと云ふ位、又長沼流、甲州流などの兵學者連は、燒草を積みし船を暗夜に乘じて軍艦に漕ぎ寄せて燒立て、其の勢に乘じて船中に飛び乘り、接戰ならば勝利我れにありと云ひ、又富津より三浦郡の地點を定め、鐵柵を引いて黑艦を嚙込めるなどの策略を出す者多く、又海岸を引上げ、彼

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を陸地に誘き寄せ、夜討して一戰に勝を制すると云ふなど、今にも戰爭起らんとする勢であつて、實に自分も頭髪の竦つ心地がした。幕府では和、戰、何れに決するか、有志の者は何れも勝手に建白を致すやうにと觸れ出し、實に大騷の次第でありました。其の翌年には安政二年十月の江戸大地震、又翌年には大風、又將軍眞徳院の薨去になり、外は米艦の返翰受取りの爲め再び渡來の約束あり、内は將軍家薨去の大難、地震、大風等の天災打續きて、實に國家多難の時でありました。

○

此時老中の筆頭は阿部伊勢守で、此内外多事のことが自ら一身に集つて來たけれども、泰然として憂ふる色なく、如何にも大量の人との評判であつた。伊勢守は中濱滿次郎が桑港より歸つて來たのを招き自邸の書院で西洋式の太鼓を打たせ、歩調を致させ自ら再三檢視したのを私は其の座にあつて傍觀した又旗本御家人等にも武藝を奬勵し、彼處では西洋調練や、此處では擊劍の仕合、其の他澁谷の駒場では野戰砲の射擊演習があり、又其の頃品川の台場も出來上つたので、大砲の試擊等武術日々に行はれ、士風自ら奮つた。

其の後伊勢守は奏聞のことがあつて、――年は忘れたが――來春は上洛するとの内定であつた。然るにその前年の秋病の爲めに卒した。その少し前に有名な松平薩摩守（世に彬齊公と稱す）も逝去した。此國家多難の時に當つて、兩爲政者が相前後して逝去したのは、國家の不幸なりと世人の風聞であつた

○

次で伊井掃部守が大老として執權の職に付きし當時、樞要の職にあつた松平信濃守、川路左衞門尉岩瀬修理、大久保右近將監（後一翁と號す）永井玄蕃守、堀織部正等は或は左遷し、或は退隱するなど樣々であつた。

○

安政五年將軍溫恭院亦薨去となり、紀州家より世

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

薨となられてから、事情は分らぬが俄かに水戸老公再三の登城、世間とり〳〵の世評喧しく、櫻田の騒動、坂下の暴擧、又上方の動搖、七卿の脱走、次で長州征伐の事あり。近國の大名山陰山陽より押寄せ互に戰爭に及んだ、此の時勝麟太郎は命を受けて大阪に至り、副將として大阪にありし駿州沼津の城主水野出羽守に面會せしに、護衛の士を連れては如何との勸めなりしが、單身にて事足ると辭せりと傍に侍し居りし手島精一は私に語つた。勝は直に單身敵地に入り、主命を濟して歸つた。其の時私は彼れを訪問して、敵狀は如何なる樣子であつたかと聞いたところが、なか〳〵嚴重に固めて居つて、己れに再三鐵砲を向けたが、隊長らしき者が制して發砲はしなかつたとの事であつた。

○

後一時は平和に歸したが、又亞米利加合衆國と和親も濟んだので、ペルリに次で同國公使トオンセント、ハルリスは江戸に入り來り、種々談判の末、合衆國と始めて通商條約を取結んだ。その條約中輸入の酒税は四割を定め、阿片は禁せられた。若しも阿片が禁せられなかつたならば、恐らくは支那の覆轍を蹈みしならむ。ハルリスは日本の爲め大功を奏せし人と云ふべきである。それで各國も皆此條約に習らつた。併し内地では攘夷鎖港の論も次第に盛んになつた。時は小笠原隱岐守、阿部備後守等執政の頃であつた。横濱等の鎖港談判頻りに天來した。幕府では池田某を使節として佛蘭西政府（奈翁三世の時）に遣し、鎖港の談判に及んだのは一時の方便であるとの風聞、案の如く鎖港の事ならず、却つて條約中酒税は四割なりしが、僅か五分に減せられ、談判に失敗したと云ふことである。

○

其の頃外國公使等が止宿して居た品川邊の寺に、浪士の夜討や、それから數十人で黨を組んで豪家に押入り、又市中取締の巡羅兵が芝の薩摩の上屋敷へ多くの浪士集り居るとのことにて攻寄せ、發砲する

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なぞの騒ぎで、市民は日夜恐々として寝食に安んじなかつた。

夫れから下關を通る亞米利加軍艦ワイオーミンと云ふのを下關砲臺から發砲し、次で英吉利、佛蘭西の軍艦を發砲し、終りに和蘭の軍艦と砲戰して四ケ國の軍艦が横濱に集り、次で再び下關へ押寄せ、蒸汽船を砲撃せられ、臺場を破壊され、遂に幕府は四ケ國に對して三百萬弗の償金を出したと聞いた。又生麥の時、横濱に各國の守兵が合して薩摩の島津勢を追驅するとの騒ぎであつたが、阿部備後守は單騎横濱に馳せて談判に及び、之れを中止せしめたとの風聞であつた。それより英吉利の軍艦鹿兒島に押寄せ、談判調はず遂に互に砲戰したと云ふことだ。夫から再び英吉利の軍艦横濱に入港した。右等の事は皆横濱の外字新聞に記載された。

夫れから上方よりは鎖港の談判の餘程切迫したのか、觸書に「江戸中半鐘を打鳴らし候節は、速に市中の者共立退くべし」との事で、市中の者共は近郷近在の懇意なる者を頼寄りて立退くなど、其の騒動は一方でなかつた。

○

慶應二年將軍照徳院薨去せられ、慶喜公その世を襲がれ、上洛して京都にあつた。時に國事益々多難遂に大政奉還、慶應四年正月早々急變して鳥羽の大事起り、慶喜公急に江戸に歸り「我命に反くものは我れに刄を加ふるに等し」と云ふ觸書などを出したと覺ゆ。それから上野山内凌雲院に蟄居、恭順謹愼して命を俟れた。主君此の如くなれば家臣は素より、皆門を閉して恐懼謹愼し、家祿は悉く廢せられ、江戸市中右往左往云ふに云はれぬ騒ぎであつた。

私は開成所（今の高等商業學校のある所）の教授であつたから、西洋の事を知らうとしてベックルと云ふ世界歴史大部の十冊物を殘らず通讀して居つた。佛蘭西大轉覆の卷二冊を兩度も復讀した時分であるから、國事の變動は實に恐るべきものとつく〲感じて居つた頃で幕府も未だ十年位は維持が出來るで

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あらうと思ふたに、世の變遷の意想外に急變なるに驚いた。恰も堅牢なる大厦高樓が風波の爲め一時に轉覆されたやうな心地がした。

○

江戸市中の有樣は嘗て歴史中に見たる無政府の狀態で、白日强盜往行、實に戰々恐々とは斯の如きものと感じた。それでこれはと思ふたから、その頃東臺に來て居た塔の峰の竹林坊に面會して、上野の宮様の御威光を以て、江戸市中御取締のことを懇願に及んだこともあつたが、事はならなかつた。又官軍の先鋒として一は東海道より品川に、一は中山道より板橋に着するとの騷ぎ、此の大都會が如何になるべきかと苦慮して、私は竊に駒込近傍の名主を集め、「諸氏、此の變動の有樣を如何に思ふか」と問ひしに、名主共も三百年來安堵して居つた厚恩に酬ゆる爲めに、何とか恩謝の事を致したいと思ひしも、如何にすれば宜いかその術を知らない「さらば主君始め江戸市中が謹愼して居る樣子を認め、寛大の御所置を歎願に及んでは如何」と相談したところが、「御諭しの通り至極御尤もの事なり」と感じ、下町山の手の名主に奔走して其の趣意を說き、市中の名主數百人、南の方は品川に、此の方は板橋に、羽織、袴草鞋がけで謹愼して願書を呈した。

夫れはそれとして、數萬の旗本、御家人の内には先祖代々の恩儀に酬いんとする慷慨志士があつた爲に、なか／＼制し切れず、遂に彰義隊なるものが起り、上野山内に立籠つて亂をなしたが、日ならずして治り又奥洲各藩及び函館も降伏した。かくして世は明治聖代となつたが、私の考へでは西南の亂治つてから封建の遺風は茲に全く一變したと思ふ。(下略)

●取消　去月號本誌第十九頁掲載の北海道某氏より海老名夫人に寄せられたる私信は、報導中思ひ違え等にて、事實相違の點もありたれば取消したき旨申込まる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

個々の音

野口精子

何ににかもさは亂れけん思ふこと調べもなさで個々の音に鳴る

悲しさの癒へがたき日はなほつゞく世は明治より大正に入る

夏よりし秋の生るゝくるしみを我があれはてし花園に見る

露おもく風うつくしき雑司ケ谷の木立の家に曉のゆめ見る

山風は黍の穗こへて君まじる夕餐の膳をにぎはしに來る

世を怨む貧しき人の聲かなし雨の日になく蟬の聲にも

夏まけと我が臥す床に人いひぬ火の大鞭にたたかれにけん

それもまた病ならんといつよりか責めもしまさず悲しくなりぬ

言ふ事に思はぬことも打まじへ心やすくも人のあるかな

いささかの熱と腹痛われやめば地獄の如く夏はくるしき

病むきみをなどやりつらんさは遠く夕暮ごとに物の

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

思はる

乘合ひの女がかほの痣などに瞳のすはる汽車のうちかな

水の花と小鳥

久野恭子

ものみなはうれしく悲し前の世の少女らもまたかくやありけん

月見草ほのかに咲けばかなしくも思ひ出づるなる夢のことごとも

神といふ語を聞けば胸少しうちふるはするリヽスのむすめ

さりげなくいとさりげなくハイヤシンスの鉢に見入りし君のおえかさ

思ふことえ言はで病める少女ありと聞きし初夏の夜のすゞしさ

しんみりと蟲のなきたるなつかしさ病める少女を語るにもよし

ほしまつり色紙にかきてもの願ぐはかの人にこそふさひたりけれ

水盤の水に咲きたる白き花を見詰めてあればあばらのいたむ

ほのかにも水盤にゆらぐ花の如く小鳥の如く世に生きよかし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

米國婦人

在獨逸ライプチッヒ　原口竹次郎

△日本の婦人と米國

亞米利加に來れば亞米利加人の善い所が目に着き英吉利に來れば英吉利人の偉い所が目に着く。又獨逸に來れば獨逸人には英吉利人、亞米利加人に見られぬ長所、短所がありまして、何れの國民を以て日本人の手本とすべきかなど云ふ問題は、容易に定めらるゝものでないと思ひますが、目下日本の教育を見ますと、男子の方は最も多く獨逸の影響を受け、女子の方は最も多く亞米利加の影響を受けて居る樣であります。日本で名の知れた奥樣方、學校教師、其他社會の各方面に活動して居られる御婦人中には實際亞米利加で教育を受けなすつた方もあるし、米國人の建てた學校などで、米國風の教育を受けた方が隨分ある樣であります。果して米國風の教育に長所を認めた揚句、こうなつたのか、米國人が最も早く最も多く日本の內地に入り込んだ爲めに、自然にこうなつたのか分りませぬが、米國の婦人の氣風教育と云ふものには、確かに見所がある樣に思はれます私は數年間亞米利加に居りまして、米國婦人の氣質、其の他に就て著しく目に着いた二三の點を次に掲げて見たいと思ひます。

△米國婦人の容貌

私共殊に男子――が亞米利加に來て一番先きに目に着くのは、亞米利加の婦人の容貌の善い事であります。佛蘭西の諺に「男は目で戀し、女は耳で戀する」と云ふがありまするが、成程そうで、女は今は必ずしもそうでないが、今迄は内に居つて男に食はして貰ふ、保護して貰ふと云ふのでありましたから、少々男の容貌は醜くても、何か仕事の出來る人、自分を喰はして與れる人、保護して與れる人と聞くと、其人を慕ひ戀すると云ふので、シエークスピアのデスデモナ姫が、色の黑い醜いオセロを愛したのは、全くオセロが過去の苦戰奮闘の經歷を話して聞かしたのに由るとまで言つた人があります。所が佛蘭西斗りでなく、男はどうも目で見て器量の善い婦人を慕ふ樣な傾向があります。器量が非常に善い婦人ならば金はなくとも、教育はなくとも、貰ひ手に事は缺かぬと云ふ有樣である。こんな鹽梅で、日本から來る男子には米國婦人の美が最も早く目に着くやうであります。成程亞米利加の婦人は着物の作り方、着こなしに於ては遙かに英吉利の婦人に劣りますが人種が多いだけあつて、容貌に變化が多く、容貌の點のみから申しますと、英吉利の婦人よりも勝れて居る樣であります。獨逸の婦人と來てはお話しになりません。顎の所が尖がつて居て、目が飛び出して居て、顔に愛嬌がなく、兵隊の樣な姿勢をして歩き妙なスカートを着て居りまして、外貌のみより云ふ時は迚も英吉利や亞米利加の婦人の敵ではありませぬ。私共はずつと以前にゲーテのファウストを習ひまして、獨逸にはマーガレットの如く美しき愛嬌のある婦人が、ごつさりあると思ひ込んで居りましたが、此處に來て見るとそうでないので、自分は果して獨逸に來て居るのであらうかと疑ふ事があります

△自主獨立の氣象

私が亞米利加の婦人に就て感じて居る第二の點は自主獨立の氣象であります。個人主義と云ふものは亞米利加人に限らず、歐米一般の特徴であつて、日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本には漸く今日此風が盛んになつて來て居るのでありますが、米國には殊に此風が盛んであることは米國の政治、其の他各方面の事情に通せらるゝ者の皆知れる所であります。而して此風は米國婦人の間にも盛んである。私がまだ亞米利加に居ります時に、一教會の牧師が、日本の婦人方が敎育を受ける爲めに隨分亞米利加に見える樣であるが此方に見える日本の御婦人方が受ける最も善き影響は何であらうかと問ひました。牧師は私がそれは基督教とクリスチャン、ホームの感化であると答へるであらうと想像して居つた樣ですが、僕は日本の婦人が米國に來て受ける最も大切な影響は基督教の影響にもあらず、又クリスチャン、ホームの影響にもあらず、米國の婦人が有する自主獨立の氣風であると申しました。山の樣な財產があつても、そんなものは何時無くなるかも知れない又今こそ自分を保護し、自分を支へて行つて吳れる親や夫や兄弟と云ふものがあつても、どういふ事情で之れ等の人々の助けがなくなるか知れない。故に夫

が無くなつても、親がなくなつても、又財産がなくなつても、心配がないやうにしやうと思つたら、自分に食つて行ける丈けの腕を養つて置くことである最後の頼りは自分であります。又結婚の問題もさうであります。結婚問題を第三者卽ち仲介者、親と云ふものに托して置くことには、慥かに善い所もありますが、親などいふものは本人の腕、人となりよりは、財產や位地に目を付けて、相手を捜す等のことがありまして、仲媒者にくつ付けられた者は、一年や二年で飽きて終うとか云ふ缺點がある上に、米國の婦人の如く個人の價値を自覺して居るもの、個人性の發達して居るものは、犬か猫見た樣に、第三者に呉れたり、呉れられたりせらるゝことを此の上ない耻辱と心得て居ります。肉體も精神も捧げると云ふ一生涯中最も大事な問題を、全く人手に委ねて解決すると云ふが如きは、到底米國婦人には考へられない所であります。勿論獨立不羈の念の旺んなる亞米利加の如きは、今日では世界何處にも見ない所でありまして、獨逸でも英吉利でも、結婚などゝなると亞米利加よりは父や母と云ふものが干渉するがそれにしても船頭が死んでも獨りで船は漕げると云ふ丈けの準備は與へてあります。日本の婦人が不羈獨立の生活をし得ること、亞米利加婦人の如くなるは、それ將たいづれの時にかある。

△敎育のある事

自主獨立の念に伴ふ米國婦人の第一の特徴は敎育があると云ふことであります。之は自主獨立と云ふことに自然に伴ふ、又伴はねばならぬ特質であります。いくら獨りで世渡りをしやうと思つても、世渡りの術を知らなければ致し方はないのでありますが其の術を與ふるものは敎育であります。獨逸や英吉利には、亞米利加程に女子敎育の機關が整備して居らぬので、獨逸、英吉利の婦人にして、亞米利加の女子敎育に就て皮肉を云ふものが少くはない。女はそんなに敎育を受けぬでも善いとか、亞米利加の女

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は餘り教育を受け過ぎるからおしやまであるとか、色々の事を申しまするが、獨逸の婦人などが知らず識らず亞米利加婦人を眞似て居るから面白い。ハーバート大學に獨逸人でミユンチルベルヒと云ふ一寸名高い心理學の先生が居りまするが、其の人が亞米利加の文化は將來婦人に依つて代表せらるゝであらうと云つて居ります。それはそうかも知れませぬ。何故かと申しますと亞米利加は御承知の如くに無盡藏の富源を持て居りますから、男子の精力は全く其の開拓に費やされて居ります。それで學校に行かなかつた者は勿論の事、大學などで學んだ者でも學校を出ると教師になるとか、文筆に從事するものゝ外は學問をしませぬ。が女は之れに反して時間の餘裕がありますから、學校出身者たると然らざるとに拘らず勉强する。それで學校教師、新聞雜誌の記者、著述家等に他國に見る能はざる程澤山の婦人が居ります、教會などは全く婦人獨占の態である。殊に男女混淆して教育して居る大學、例へば有名なコーネルなどで、男學生をして後に撞着たらしむるを見ると溜飲が下る樣な氣持ちが致します。勿論學校で成績の善いのは當てにならぬことは慥かであります。女の學生は男を負かして遣らうと思つて一生懸命になつて勉强します。それで學校の成績は善いが卒業後の成績は左迄善くありませぬ。が併しミユンスチルベルヒ氏が申しました樣に、亞米利加の文化の一部は女に依つて代表せられて居ることは事實であります。教育のあること、智識の發達して居ると云ふことは、教育とか何とか云ふ方面に於てのみならず、個人的交際などにも其の効果が現はれて居ります。男子などが善い加減なことを云つて、女をだまさうと思つても、容易にそんなことは出來ませぬ。女の方では此の奴何を云つて居るか一つ試して見て遣らうかと云ふ調子であるから、馬鹿な男子などの乘ずべき機會がありませぬので、男子の方でつゝ謹愼することになります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△意志の鍛錬せられ居る事

自主獨立と云ふことに伴ふ第二の特質は、意志が鍛錬せられて居ると云ふことであります。之は皆様が目の前に見て居られる事で、別に長たらしく申し上げる必要はないと思ひます。日本に行つて居らるる女の宣教師などを見れば直に分ります。成程女の宣教師などには善い人ばかりは有りますまい。併し兎も角も人種も違ひ、言語風俗も違ひ、生活狀態も違ふ異國に行つて、自分の信仰信念のために奮闘して居る多くの婦人を見る時は、吾々は感服せずには居られませぬ。それで一つ西洋の婦人、殊に米國の婦人に感せざるを得ないことは、少しの成功位では滿足せず、成功の上に成功を重ねやうとする積極的の精神であります。日本では夫が金鵄勲章でも貰つて年金が何百圓だか入り、今日のことに困らなくなれば、奥様は最早夫を勵まして尙ほ成功する樣に、もつと收入の道を開く樣にと力めない樣である。が亞米利加の婦人は百萬や二百萬の金を拵へたとて滿足すべきにあらず、もつとお遣りなされ〳〵と云ふ風に出掛ける。即ち少し位得意の位地にあつても之れに安堵せぬ、滿足せぬ、遣れる所まで遣れと云ふ調子であります。亞米利加が今日の如くに富を積んでも尙ほ且つ滿足せず、先へ〳〵と進んで居るのは全く此の積極的精神に基いて居るものであらうと思ひます。併し消極的に困難に堪ゆると云ふ點に於ては、日本の婦人の方が亞米利加の婦人よりは勿論のこと獨逸の婦人よりも強い樣であります。日に三度香の物を嚙つて、寢ながら星月を眺むることが出來る樣な上等のあばら屋に住んで居つても、夫を助け夫の側にくつ付いて居ると云ふ樣な婦人は、日本に多い樣である。亞米利加では夫が怪我して鼻が曲つたとか、商賣で損して暮しが立たなくなつたとか病氣したとか云ふので離婚する婦人が少くはない樣である。之れは亞米利加の婦人ばかりの特質ではなく、西洋人全體の特質でありまするが、どうも積極

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

的に先へ進んで行くとか、得意の境涯を持ち續けるとか云ふ時には、亞米利加婦人の方が強い樣であるが、失意の境遇に堪へる、いざ背水の陣を張ると云ふ時になると、日本の婦人の方が強い樣でありますが私には何れが善いか分りませぬ、勿論兩方ある方が善い事は分り切つて居ります。

△その自由なる事

不羈獨立の風に伴ふて、亞米利加の婦人には到底他國に見ることの出來ない自由があります。亞米利加の婦人は社會上に於ては勿論のこと、政治上に於ても他國の姉妹に先つて、男子と同等の自由を得んとして居ります。否社會上に於ては女は男よりは却つて多くの權利を持つて居る。女の前には何をしてはならぬとか、かにはしてはならぬとか云ふので、日本から始めて來た人などは之で大分閉口して、米國婦人の惡口をする人まで出來て來る譯でありますが、實際呆れてしまう程女を奉つてある。然し亞米利加の良家の御孃樣などは、自分に與へられた自由を女らしくならうとか、愼み深くならうとか云ふ方面に使用しますから、あんな自由な國であるに拘らず、お孃さんらしきお孃さんが隨分ありますが、日本邊りからぽかつと來て、表面のみを見て之れを眞似して居る婦人には、眞に鼻持ちのならぬ者があります。私は日本の婦人が亞米利加に勉强に來ることには大賛成でありますが、それは適當な監督者、家庭がある時の話で、然らざる場合には寧ろ日本に居た方が善いと思ひます。

△位階より腕を尊ぶ米國風

亞米利加の婦人に就て思ひ當る點はまだ幾つもありますが、其の一つを擧げて終りにしやうと思ひます。亞米利加人には妙な所があります。何か人並以上に仕事の出來る人を、殆んど迷信的に崇拜する癖があります。亞米利加に外國からやんごとなき方々が來られても、米人は殆んど全く注意を拂はぬ。新

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

聞などでも大抵は五六行どつか隅の方に書く位のことである。併し何か大きな仕事をした人と來ると大變である。日本人、支那人、黒ン坊、白ン坊の差別はない。わーい〳〵と云つて我れを忘れて騷ぐ、持ち上げる。其の精神は先年黒木大將や東郷大將が來られた時に遺憾なく發揮せられて居ります。私共が日本に居ります時に、米國歸りの日本人が、若し某大將を見せに米國に連れて行つたならば、日本の國債の幾部分は返せる位澤山の金が取れると云つた位米國人は何か仕事の出來る人を崇拜する。斯くの如きは建國の精神が全く平民的なのに由るのでありませう。亞米利加の黒ン坊は白人に非常に憎まれ、非常に嫌ばれ、非常に輕蔑せられて居ります。先年オハイオ州に白婦人を妻にして居つた黒ン坊が居つた己れの種族の者を妻にして居るとは不屆千萬な奴であると云ふので、白人が之を焚き殺したことがあります。斯くの如く輕蔑せられて居る黒ン坊の中に、拳鬪のうまいジョンソンと云ふのがありまして、今では其の道では天下に敵なしと云はれて居りますが米國の新聞は其の一擧一動に就て書く、而して彼の妻は白人であります。斯くの如く米國人は位階など云ふものには冷淡である代りに、何か一藝に通して居る人を極端に崇拜する癖があります。而して亞米利加の婦人がそつくり此の氣象を持つて居ります。フートボールの馬鹿にうまい者、ベース、ボールの人並以上にうまい者とか、非常に上手な自動車の運轉手などに、お孃樣方が夢中になることは往々にしてある。階級の差に依らず、人の腕に戀すると云ふことは善い事でありますが、亞米利加の婦人が人を中から全體として見ないで、外から一藝一能のある人を無暗に崇拜するのは、餘り感心しませぬ。こうなると自然フイジカルの物を重んじて、精神を閑却することになりまして、甚だ面白くない。勿論精神、精神と云つて居て、理屈ばかりこねて居つて、何にも出來ないものは尚ほつまりませんか。

(七月二日稿)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

趣味の生活

海老名みや子

世の中を味氣なく送るも一生なれば、又面白く送るも一生であります。人は高きも賤しきも、長き短しの違ひこそあれ、皆人ともに此送るべき一生を有つものでありますから、同じくば味氣なき一生を送るより面白き一生を送ることは、どの位、其人の仕合だか知れませぬ。面白く送るとは、飲めや食へやの享樂主義とかの生活をいふのではありませぬ。世の生活の眞想に觸れ、其味をかみしめて、其妙趣を味ふてみますれば、平凡な日常生活にも實に云ひ知れぬ面白みを覺へるものであります。手近なことから申ますれば、私共が、三百六十五日が間、一日も休みなく繰返し／＼てをります食物のことでありますが、この極りきつた、簡單明瞭な仕事であるに係らず、

「今日はどうしやうかネー」

とは恐らく凡ての主婦の口々から毎日繰返されて居る言葉であると思ひます。そして此言葉によつて三度々々の御馳走が食臺に供へられましてお祖父様もお祖母様も、旦那様も子供達も皆々大御機嫌で舌皷が鳴らされることもあり、又不平たら／＼の不愉快な食事となることもあります。此「どうしやうかネー」でお金持にもなれば、貧乏にもなります。此「どうしやうかネー」で家中のものが健康にもなれば

不健康にもなります。思へば實に面白い、大切な言葉であると思ひます。しかも此言を繰返し得るものは主婦たるもの丶特權であると思ひますれば、此一事でゝも主婦たるものは、自重しなければなりませぬ。ア、女はつまらない、毎日〳〵食物のことなどばかり頭を遣つて、心配して居るからどうせえらひ人になれ樣筈はない。學校で學んだこともこんなことでは何の益にも立たない。いつそ學問なぞしない方がよかつたなどゝ、つまらぬ弱音をおはきになる方もある樣でありますが、それはとんだ心得違ひで此「どうしやうかネー」の意味を、解しそこなつたのであると思ひます。「此どうしやうかネー」は實に意味深長で、皆さん方が五年十年、竪の字や横の字で御勉強になつたあらゆる學問をつかつて解釋する價があると思ひます。それは、仲々面白いものですよ、マア理化學も入れば數學も入る、經濟學衛生學それに美術も加味されて、これらが工合よく調和されてそして此「どうしやうかネー」が解釋されて現はれたものが最上の御馳走であります。山海の珍味は先づ置て、三度〳〵同じものを繰返してる、御飯をたくとだけでもさう簡單なものではありませぬ。オ、いやだ、今朝の御飯はパチ〳〵で、お夕飯のは丸でおかゆの樣だわ、水加減はやつぱり同なじにした筈だのに、もう御飯をたくのはいやになつたとは赤い襟に胸からの白前掛をかけた、世帶初めの花嫁さんの口からよく出ることばでありますが、いやにならずに、これは面白いものだ、同じ水加減でかう一樣に出來ないのは何の理由であらうと一寸考へてごらんなさい、それは仲々、面白うございます。御飯が出來るのは決して水ばかりではない、火力もいれば其火力の用ひ方にもよる、又其お釜には入てるお米の量にもよります。そこは乃ち皆さんが、理化や數學で練つた頭を一寸遣つて御覽になると、成程こうだ、あうだと實驗に照して思ひ當る節々がありますので、次には其點に注意してやつて見ますと、果してそれが適中して段々成功致します。するとこ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

こに一種の興味が出來て來て、其いやであつた御飯焚きが面白くなつて、さまで勞を覺へなくなて參つります。尙其研究の歩を進めて、此お米は新米か古米か、古米なれば水を深く新米なれば水淺くといふ樣に、それからそれとたどり得る理屈に應じて實驗する時は、實に限りない面白味を覺へるものであります。お米でさへ此通り、況して其他のお料理に於ては、少くとも一回の食事に二三種いりますから、其研究の餘地はいくらでもあります。其人の頭の働かし樣如何によつて、同じ費用を遣つて美味しくもまずくもなるものであります。やつと朝がすんだらもうお晝の仕度だ、いやだナアと思はないで、お金を少くかけて、手がかゝらないで、そして美味しいものをと、六ケしい注文ですが實際やり樣ではてはは出來ないことではありませぬから、少し頭をつかつて見ますと、果して其注文にあまり遠くない處のものを實現することが出來ます。この樣にしてお臺所の趣味が出來て參りますと翌日の御獻立を前夜にする或は一週間分を作つて置くといふ樣に、其御獻立をすることを一つの樂しみと思ふ樣になります。尙其品物を煮焚きするとに付ても、かの御飯の樣に面白く研究しつゝ致します時は、仲々面白いもので、其中には技術も進み、一通りのことは苦なしに出來る樣になります。尙其上に研究に研究を積んで參ります時には、いつ迄も興味つきざるものでございます。臺所の片付方などもいやなものゝ樣で、又仲々面白いものであります。最も手ばしつこくて、清潔に、衛生的に、且美術的に片付けるには相當の頭を用ひなければなりませぬ。日進月歩の世の中でありますから、臺所の器具類なども、マアこんな調法の物がと思ふものが出來てをります。少し研究して改良を加へて參りましたら日本の不完全な臺所もあまり費用をかけないで一新することが出來樣と思ひます。其他洗濯のこと、お掃除のこと、一つとして面白くないものはありませぬ。白いものは破ける前にはねづみ色になるものだとは日本人の頭に染みこんでる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る考でありますが。これ一つでも在來の洗濯法が如何に不完全であるかゞ分ります。これを本式の洗濯法にかけて雪白にしてちやんと火のしをかけた氣持はよいではありませぬか。此樣に一寸頭を用ひて見ると仲々面白いもので、面白いと思ふと苦なしに洗濯が出來る樣になります。ものは心の向け方、働かせ方で、最もいやな、つまらないと思はれる仕事も貴い樂しい面白い仕事として致すことが出來ますのは實に有難いとではありませぬか。

襤褸弄りの趣味

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

オーシーツクの聲に秋がきかれる樣になりますと暑いながらも氣がせかれて、汗をふき〳〵張りものも急がねばなりませぬ。土用干しに見わけて置いた直しものや不足のもの、あゝかうかと積り物に忙しい今日此頃、私は襤褸弄の趣味を皆樣にお勸め致し度いと思ひます。これは又臺所の仕事以上に面白いもので、其實益も、經濟の上に、美術の上に目に見えて顯はれるものであります。私共の樣に古い人間になりますと、土用干の折など取出した着物を見ますと、いづれも謂れ因縁が付て居まして、二十年や三十年の歷史を持てるのが多うございます。或は表が新時代で裏は半世紀の昔物といつた樣なとり合せで、とんちんかんでお話になりませぬが、時たま染物屋の世話を受けて、裾や袖口は少しばかり近世の色を見せて置きますと、どうやら當時の仲間入りをした樣で用られぬこともありませぬ。春秋と流行を追ふお仲間にはお話相手にもなれませぬか、普通一通りの家の經濟で、さう新らしいものを、新らしいものをと申すことはとても出來ないことであります。されぱと申て自分は兎も角、若い娘達が、あまりに時候はづれの寢ぼけ色をして居ては如何にも見劣りがして、可愛さうでありますから、そこは主婦なるものが大に襤褸弄りの趣味を發揮させて色の配合をよくして、古いのものも新らしく見える樣にするとが必要であります。此趣味を一度覺へますと、それは面白いもので、とても止られるものではありませぬ、例令ば二十圓の金を以て娘の爲に一重ねの衣を作らへると致しましやう。若し裏表綿迄そつくり新らしくして仕立ても人にさせますなれば多分上等メイセンか安糸織の重ね位ほか出來ますまい。所がいろ〳〵工夫を致しまして、裏や下着の胴を古いものにするとか或は下着の廻りを古もの染直しで致しまして、賣り出しの時お召の見切でも買つて、裾廻しに少しはりこんで品もよく色の配合もよいといふのをつけることにして、成る可くは自分で仕立てることに致しますと、立派にお召の一重ねが出來ます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

どこかに古物がのぞいて居てもメイセンの重ねよりお召の重ねの方が慥かによく見えるに相違ありませぬ。よく承りますが、宅なぞにはそんな古ものや、ときはなしの裏なぞはさがしてもないと御つしやる方がありますが、それはどこの内にもあると極つたものではありませぬが、少し細かにする家では子供の一つ身のお古だとか若い時の長襦袢だとか、少し色がさめても胴抜の切だとか、何やかやあるものであります。派手な仲間では、表より裏だと申しますが我々の様な貧乏生活ではそんな贅澤は云つて居られませぬ。私は一日、私の敬愛する或博士夫人を訪ひました時、積りものを出し散らしてあつた中に、文久時代處でなく、天保時代と思はれる眞の退紅色の胴裏が、可なりよいお召物の裏として揃へてあつたを見まして、私は實に感服しました。かくてこそ其夫人の價は益々高められるのであると思ひます。今より十七八年前のことでありますが、私がいつも古物利用をして居ますのを見まして、よく私の趣味を解して呉れる友人が、あなた方の様な方は上から下まで新らしいものでそつくり装ふたより、古物を利用した方が、奥床しく却てよいと申されたことがありますが、それは幾分慰めの言でもありましたらうが、私自身はそれが好きでありますから友人の言を嬉しく思ひました。三越に行つて三十圓で一重ねを作らへるとは、誰でも彼でも出來るではありませぬか。只縞柄と色の見立、それも分らなければ番頭が指圖して呉れます。これがお流行りで候と嬉しがつて着て居りますと一二年も立つともうそろ／＼其色が倦きて來る。さうするとそれを安く賣り拂つて、澤山の足しをして又新らしいのを求めるといふ様になる、其足金ばかりでもとても我々中等の經濟ではたまつたものではありませぬ、襤褸弄りの好きなものには、三十圓の品を三十圓で買ふのは惜しくてたまりませぬ。何とか工夫をして三十圓の物は二十圓で間に合せ二十圓の物は十五圓で間に合はせるといふ所に面白みがあるのと同時に捨てられた品物が再

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

び生きかへつて用らゝるといふとに限りない面白味があるのであります。斯の如き趣味を以て食物と共に主婦の大事の仕事である衣類の世話を致ましすと其仕事がいやでなく面白く樂しみながらする事が出來ます。澤山の張物をこれはかう、あれはあゝと一々積て積み重ねた氣持は眞によいものであります。
私共此頃、新聞紙上で、又は雜誌に於て、乍恐先帝陛下が、如何に御儉德に渡らせられたかを拜察し奉るごとに、日に月に驕奢に流れ行きつゝある、我日本國民が、大に覺醒すべき秋であることを感じます。美術と驕奢とは兎角伴ひ安いものでありまして、美術を發達せしめんとすれば、驕奢は免かれないものと心得驕奢を戒めんとして美術心をも打破らんとする傾あることは、敎育者の中などに著しく見る處であります。これは甚しき間違ひて、私共は質素の中に美術心を養ひ、簡易生活の中に最も進歩せる智識と思想とを充たして、高い妙味ある生活を致したいのであります。(つゞく)

倫敦の褓姆と幼兒の躾け

太田秀子

△産婦の看護婦

當地にては普通ナースと呼ぶ中に二種の區別があります。一は病院の看護婦、一は褓姆にて、どちらも一見して分かるやうな、或一定の服裝を致して居ります。日本では出産の時に入院する人々は中流若しくはそれ以上の人でございますが、英國ではそれは全く貧民で、所謂施療患者が多いのでございます。
婦人が姙娠後四五ケ月に及ぶと、醫師の診察を受くると同時に産婆の撰擇を初めます。大抵は數人の産婆と會見して若し適當なる人を得ました時は、凡そ何月何日頃より雇ひ入るゝといふ約束を致します何故なれば産婦を委託されたる看護婦は、其期日の

一月前よりは傳染病者を看護する事も、無斷にて旅行する事も許されないからで御座います。かくして產婆は產期よりも二週間位前から宿泊致し、終始產婦に扈從して、萬々の注意を拂ひつゝ、靜かに產期を待つのが常でございます。そして倘產婆は產後一ケ月滯在して、產婦一切の世話、生兒の入浴、授乳に關する萬端を致し、若し生兒健康にて種痘に堪へ得る時は醫師に種痘を乞ふ其間の手當をもなすのが常でございます。

△褓姆の撰擇

此の時から子供は褓姆の手に移ります。それで英國の褓姆は其國内に止まらず、歐洲各國にても診重せられ、歐洲大陸の富豪等わざ〳〵英國の褓姆を雇ひに來るよし、從つて上下の階級も種々ありますがその雇ひ入れに凡そ斯樣な區別があります。第一周旋屋に依賴する事、第二新聞に廣告する事、第三ナースの學校の卒業生を依賴する事であります。

周旋屋に依賴する事、又新聞に廣告する事等は一見誠に危險の樣に思はれますが、當地ではナースの雇入れに對しては非常に證明書を重んじ、凡そ年齡、給金、經驗等、適當と思ふナースが見當りました時は、雇ひ入れるに先ち、主人より性格、健康、經驗の有無、裁縫、洗濯の巧拙等詳細問ひ正したる上ならでは約定しない習慣になつて居ります。夫れ故ナースの方でも日頃の擧作が一々自分の證明書に關係致しますから、割合に自己の職務には責任を盡す樣に思はれます。ナースの學校は私の存じて居るのが二校有ますが、何れも修業年限滿一ケ年で、其處では貧民の子女を哺乳期より三四歲になる位まで預り其上食事、入浴或は病兒の看護に至るまで實地練習を致させ、其上倘裁縫、編物、洗濯、鏝の當て方等の事も授けるのでございます。そして育兒は學問よりも實地の方が大切故、この校の出身者でもやはり社會に出て多くの經驗を積むに從ひ、經驗ある褓姆として珍重せられ、從つて資格もその年齡や經驗の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

多少に依り加はるやうになつて居ります。其代り此等ナースの育兒法は非常に嚴格なもので、餘り母親の干渉を喜ばず、子女に於ける權利は母よりも寧ろナースにありと申してよろしうございます。

△育兒の注意

小兒部屋は晝の爲め、夜の爲めとの二室がありまして、大抵カーペットを敷かず、オイルクロースを敷くのを常と致して居ります。毎日濕布にてふき取る便があつて、塵埃の立つのを防ぐ事が出來ます。終始窓を開閉し、又煖爐の火を加減し、冬季でも大抵華氏六十度の溫度を保つ樣にして居ります。

初生兒の授乳は晝間は二時間隔き、又は三時間隔きと致して、夜間は成る可く授乳させぬ樣にし、凡そ滿四ケ月位に達しますと、最終が午後十時で、翌朝六時迄は授乳致しませんが、習慣の故か夜間泣きむづかる等の事は病兒の外餘りなき樣に見受けますお負う等は以ての外の事で、初生兒が凡そ滿七ケ月に達する迄は抱く事も不可と致し、大抵靜臥致させ、假令へ抱く時も靜臥の狀態を保ち、縱に抱く等の事は決して致しません。外出は氣候にもよりますが、生後大抵二週間目位より致し、午前と午後の二回で夏期など終日乳母車にて外に暮す事多く、室内にあるは雨天の時ばかりでございます。入湯は初生兒なれば午前十一時頃部屋の暖まつた時させ、漸々成長したる子は就寢前に使はせます。又初生兒は屢々下肢部を洗滌致し、尚食前には手と口とを洗ふ事を習慣にして居ります。就寢時は午後は六時と定めて、假令へ泣きむづかつても抱き上げて搖ぶる等の事なく、又寢かし付ける等は惡しき習慣と致し、時間が來ると燈火を消し、寢床へ入れて終ひます。初めは泣き叫びますが、一週間位たつと此の習慣に馴れて終ひます。其れ故當地にては午後六時頃外に抱かれて歩く赤兒、又は外で遊ぶ小兒は先づ中以下の子女と見て差支へございません。衣類は通常足より三四寸も長い、所謂一つ身風の衣服を着せますのは生後

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四ヶ月までゞ、其後は短い衣服に變ります。襁褓は毎日洗ふ外一週間に一回シャボン水にて煮沸致します。滿五ヶ月位より便器を用ひ初め、滿一ヶ年位にて大抵襁褓の必要がなくなりますが、便通も大抵時を定めて致させますから、寢床を濕らす樣の事はめつたにありません。尙襁褓を他人の面前にて變へる事を非常に恥ぢとして、假令へ兩親の面前にても、避け得る限りは目に入れぬ樣に致して居ります。

　子供が少し成長して乳以外の食事を取るやうになると、林檎の煮汁、杏果の煮汁、極く輕き Nursery biscuit を乳に浸たした物を用ひ初めます。滿一ヶ年程になると半熟の玉子の黄味、パンにバタを附けた物、セイゴの極く細かなるもの等にて、此の外 Raw-meat juice と申し清水の中に生肉を細かく刻んで、一晝夜浸たし、それより出づる杏果樣の汁を毎日一回テーブル、スプーンに一杯飮ませます。

△英國の名士は名家より出づ

　ナースは小兒一切の責任を負ふ代りに、家內の雜用には一切關係致しません。終日の仕事は小兒の起床、外出、食事に就ての外なく、かうして一年の課程は時計の針の如く回轉致されるのでございます。當地の子供はこのやうにして五六歳に及びますと、家庭敎師の手に移りまして、中以上の子弟は餘り學校へまゐらず、初等敎育は大抵家庭敎師の手に委ねらるゝやうになつて居ります。そして女子は、中等敎育も矢張り家庭にて受くる事多く、男子は之れより學習院とも云ふべきイートン又はハローの校程を終へ、オックスフォード、又はケンブリッヂに進むのでございます。彼の日本の立志編中の人物が大半貧家苦學の子弟の立志談に埋めらるゝに反し、英國では政界に名を有する人、實業に敏腕を振ふ人、其の他思潮界を風靡する碩學家等、殆んど名門の出である事は、私共に取りて奇異の感を起さしむるので御座います。之れを見ても如何に子弟敎育の忽がせにすべからざるかゞ首肯致されます。

ローヘングリン（下）

三枝幾子譯

夜になり、エルザと夫とは一室に通されました。二人は初めて人無き處にて儀式の前に起つた不思議な出來事などに付き、話合ふ事が出來ました。武士刀を取り外し、エルザの前に跪いて云ふやう、

『美はしき我妻よ、御身は今もなほ御身の夫を疑ふや、又は我が永久に御身を愛でいつくしむ如く御身も終りまで吾れを信頼し呉るゝや』

エルザは愛らしき瞳に武士を仰ぎ見て、

『妾は何事につけても偏に君を愛し、君を信じ奉らん。されど御身の本名及び生國をさへなほ妾に秘め給ふ處を見ては、君の妻たる妾を信じ給ふ御心の薄きやう思はれ候。夫の秘密を守り得るもの妻の外には世にあるべしとも覺えぬに……」

武士は悲しげにエルザを見て答へました、

『御身は何故にオーツルドの如き毒婦の言を、我が嘗て御身に與へし約束よりも重しとするや。今若し我れ御身に我が秘密を洩さば、我れは直ちに我身を去らざる可からざる事を、御身も良く知り居るに非らずや」

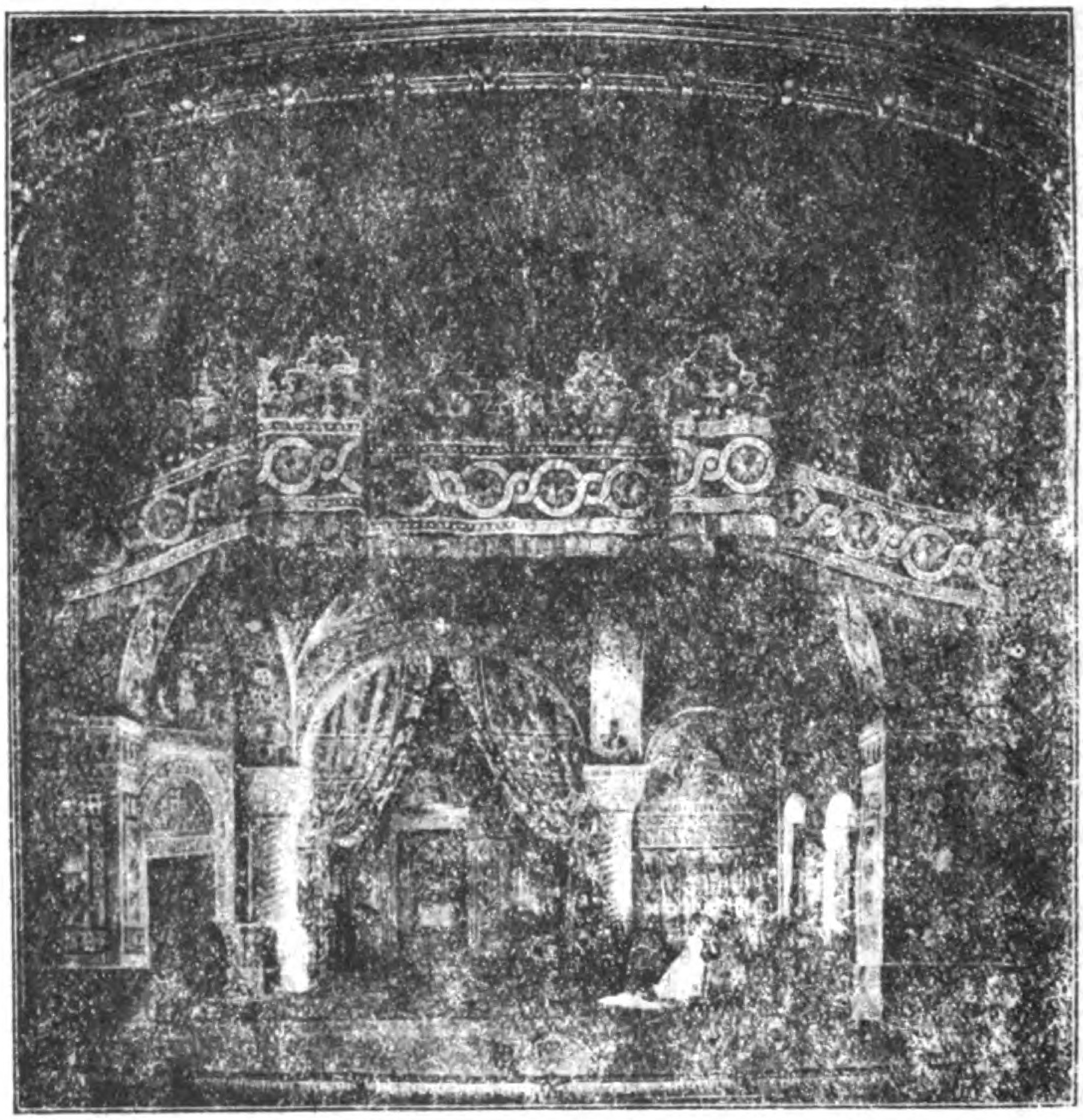
此言葉を聞くや、つひ前夜オーツルドの云はれた事共が再びエルザの胸には湧いて來ました。

『君が秘密は確かに語るに耻ず可き事と推せられ候さらば妻たる妾に分ち給ふ事勿れ』

エルザの訟ふるが如く申ますのを、長く優しく武士

は說きなだめました。彼の鄕士の普通此の世のものとは異つて居る事、彼女を救はんが爲に彼れは其幸ある國をさへ去つて來つた事、及び正義と仁とを以てブラバンド王國を二人で支配する事の出來る輝いた未來の希望などまで、色々と語り聞かせました。而し其日の種々の出來事の爲、少からず激して居りましたエルザの耳には、此の快よい說明も、なか〳〵入りませんでした。唯々武士を失ふてはならぬと云ふ危みの一念に心暗んで彼女は夫の腕に縋りつ痛ましく咽び乍ら申しました、

『魔術に依つて來りしものは、又魔術に依つて去る
いざ〳〵君が御名、君が出で給ひし御國の名をも
聞かせ給へ』



エルザ居室に武士と語る　ウイスバーデンの王室劇場

堪へ難き悲しみに、武士の顏は曇りました。正に何事をか言はんとせし其刹那室に通ずる秘密戶は俄に押し開かれ、四人の從者を伴れたテラモンド伯は室內に入り來りました。今頃は定めてエルザも武士も寢つて居るだらう、それならば大丈夫オーツルドの言葉の通り重傷を負はす事も出來やうと心に望んで來たのでありました。然

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しテラモンドより機敏でありました武士は、すかさず相手の刀をもぎ取り、一打に伯爵を足下に切り捨てました。此の有様に驚いて逃げ去る他の者を見送つて、武士は抜身の刀を手に下げた儘、恐れ戰慄いて居るエルザに向ひ、言葉靜かに述べました。

『御身は我が秘密を聞かんと迫れり、我れ最早御身の願ひを拒まず』

此時迄戸口に群り立つて居りました華族や婦人たちは、一度に室内へ押し入りました。武士は一人の侍女にエルザを渡し、

『早や夜明近し、我れは王に遇ふ可き必要あり、エルザ姫の望むが儘に我れは我が秘密を告げ、然して後此の土を去らん』

云ひ殘して急ぎ彼れは宮殿を立ち出でました。

二三時間の後傳令使のラッパの音は再びアントワップの人民を例の川邊に呼び集める爲に響き渡りました。王様は既に其處に居られ、華族や市民も今傳令使より傳へられた不思議な事件の内容を聞こうと、我れ先にと集りました。公衆の前面王の傍になほも儀式の服のまゝ立つて居りましたのはエルザであります。其の痛々しい姿を見ては、誰一人同情の涙を注がぬものは有りませんでした。

『武士は來れり』叫びと共に公衆の開いた道を通りて、彼の武士は王とエルザの前へと進み出ました。初め來ました時着けて居りました甲冑をつけ、十字の柄の長劍を腰に、テラモンド伯の挑戰に應ぜし金の角笛を胸に、眞白の羽根に飾られた兜を頭に戴いて、王の御前に立つた彼の姿は誠に神々しく相見えました。

エルザは其樣を見るや、己のが悲境に際せし折望みの言葉を持ちて現はれ出た幻像の武士、彼女の生命を救ひ王國を取り戻して與れた其勇者の今更乍らに惜しく思はれ、己が誓ひを破りし事、及び其報いとして今後再び此武士に見ゆる事の適はぬ事を思ひ知りました。武士が低く淸らかなる聲にて王に物語りました時人々は固唾を呑んで耳傾けました。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『慈悲深き王よ、我れの誰なるや、又何處より來りしやをエルザは知らんと望めり。我れ今此疑問に答へんとして來れり。悲しいかな！彼の女の優しき心は惡魔のさゝやきに迷されぬ。これより我れは彼女と別れ元來し處へ歸らざる可からず』
『否なとよ。氣高き武士、之はあるまじき事なり。汝も知らるゝ如く、我れはハンガリー人と開戰の準備なさんが爲に明朝獨逸に向ふて出發せんとす、我が味方せんと誓ひしアントワップの人民を率ひて一方の將たらん事を我れは汝に望むなり。』
『御命に從ひ奉り度きは山々なれど、我は直ちにアントワップを旅立ざる可からず。最早之が最後なるべし』
答へ終つて武士は公衆に向ひ聲高く、
『此處を去る遙か彼方なる鄕土の中に、世にも人にも知られざる淋しき道に隱れしモンサルバと呼ぶ町あり、其處に一ッの祠あり、其祠の內に世に又となき寶の藏められたるあり、――一ッのカップ――こそ目のあたり見る時總ての罪は淸めらる。初め天使に依つて天より持ち來されし物なるが其れより年に一度一羽の鳩は地に下りて、其賜物の今もなほ此土に存するを報ず。聖盃と呼ばれしものは之なり。之を求むる我等武人は其命ずる處に從ふて武士の本分を盡さゞる可からず。我が父は此等武人の頭にして其名をポルシパルと呼び我れは其子ローヘングリンなり』
驚きのさゝやきは公衆の中に湧き出でました。王は手を擧げて之れを制し、武士は再び語り續けました。
『邪を正し、弱きを助け、無智なる者を保護し、惡しきを征す。之れ我等聖盃の武士の天職なり。但し善事をなすも己が名をば告ぐるを得ず、若し其秘密の洩るゝ時には聖靈の力は失せ、疑はれし武士は再び其祠に跪かんが爲に鄕土に呼び戻さる』
此時川岸近く立つて居りました人々は叫びました。
『アレ、彼方を見よ！　白鵠が又來る。』
一同は振りかへつて靜かに流るゝ水の面を眺めます

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と金の鎖のついた鵠にひかれた小舟は忙し氣に此方を指して進み來る處でありましたエルザは其舟を見ローヘングリンの今や立ち去らんとするを見るや身を躍らして彼の腕に縋りつきつ、涙をふるふて叫びました

『止まり給へや！願くは我と共に止まり給へ！今にして始めて妾の罪の深きを知る、君止まりて此民を保護し給はゞ、妾はよろこんで君の代りに死に申さむ』

ローヘングリンは靜かにエルザを離して申ました。

『我れに撰擇の自由無し、唯だ聖靈に從はんのみ。

ローヘングリン去る

但し御身に語り度き一事あり、そは外ならず、若し御身にして僅か一と歳の間我れを信じ居りしならば、弟コトフライトは御身の許に歸り來り、御身は幸福なる身の上となりしならむと云ふ事なり。』

武士は靜かにエルザにキスして別れを告げ、將に舟に入らうと致しました。今迄公衆の蔭に居りましたオーツルドは、此時前に躍り出で、泣いて居るエルザを憎らし氣に見つめて、

『天の助けも最早あなたを救ふ事は出來ますまい。今だから言ふて上げますがあなたの夫を故郷に送

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

り返そうとして居る鵠は、あなたの弟のコトフライドでありますよ。森の中での散歩の折、あなたの傍から彼を離したのは此私です。そして又鵠に變へてやつたのも此私、此私が許すまではいつ迄も、あの儘の姿で居らねばなりますまゐ。若しあなたがあなたの夫を忠實に信じて居つたなら、一年で私の魔法も破られ、私の力では再び彼を害する事は出來なくなるのでしたのに…………

と云ふて彼女は勝利を誇り顔に高く嘲笑ひました。

ローヘングリンは總てを聞き取りました、然し神秘の力の既に彼より去つた今、到底オーツルドの毒惡なる計畫に抵抗し難いと思ひましたので、彼は低く跪いて首を垂れ、天に祈禱を捧げました。恰も其時遙かに高き青空の一隅に美はしき一羽の白鳩が現れました。次第に低く下て參りましたが跪いて居る武士の眞上まで來ますや、一寸羽根を休めて止り、それから嘴を以て鵠の首の金の鎖を動かすよと見る間に、美はしき鳥の姿は忽ち水中に消え失せました。

其れと同時に岸の上へ躍り出たのはコトフライドで有ります。

エルザは兩手を廣げて弟を懷き抱へ、弟は又なつかし氣に姉をいだいてキス致しました。二人は暫時夢中で有りましたが

『止まり給へ！我等を捨て去り給ふ勿れ！。』

と叫びに叫ぶ人々の聲に、エルザは初めて心づき、見れば白鳩に引かれた小舟は靜かに流るゝ川の上を滑つて、今しも遠ざかり行く處で有りました。

ローヘングリンは手を擧げて此方に向ひ、許しと告別の記しなる十字の形を畫き見せましたが、間も無く其姿は舟諸共に消えて見えなくなりました。

取り殘されたエルザ姫は、氣も魂も失せ果てゝ、高き悲痛の叫びと共に弟の足下に打倒れました。

「終り」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

◎天眞なれ

海老名　みや子

逗子の親戚の許に、とまりがけにお客に參りました子供からの端書に……………お祖父樣、お祖母樣、皆樣が大變お喜びになりました、…………何々おば樣、何お姉樣、何子さん、何子さんがステーション迄おむかひに來て下さいました…………………私は此端書を見て何と美くしい氣持であるかと思ひました。皆さんが喜んで迎へて下すつたことを其儘、自分等の心に受けて、あらん限りの喜びを反射させて居る處何のさわりもなく、蟠りもなく、天眞爛熳、眞に美くしいではありませぬか。此美くしい子供心に、いつとはなしに遠慮、斟酌はまだしも、邪氣、疑など樣々の不潔な汚染をにじまして行く人の世を怨めしく思ひます。私はつく／＼社會一通りの交際法はいやになりました。云ひ度いことは云はず、云ひ度くないことも時々のお調子を合せる爲には云はねばならず、人の深切も半ば受けて　半ばは疑ひ、いらない遠慮もして見たり、一から十迄煮えきらない心地惡るさ、丁度どんよりした薄曇りの、むし暑さに、ねと／＼した油汗が全身にしみ出る樣であります。此氣持が我日本社會おしなべての通弊ではありますまいか。あすこにも暗流、こゝにも暗流、ナゼモット公明正大な氣を持てないでしやう？この氣持を一掃しないでは、到底我國民の大發展は望まれない樣な氣が致します。せめては近しい我々御互の間柄にはかゝる通弊を打破つて、心のまゝを云ひ、云ふがまゝを信じて、然り／＼否々で行きたいではありませぬか。萬物皆然り／＼否々で生々してをるではありませぬか。鳥も然り／＼否々で大空を翔つてをります。魚も然り／＼否々で海に躍つてをります。然るに人の世のみ然り／＼否々が行れないとは眞にな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さけないではありませぬか。大に自反し、大に覺醒すべきだと思ひます。

◎受洗後の修養

岡崎小文

日頃は學科の爲に追はれ勝で、つひ〳〵生命の食料を外にする事が多う御座います。忙しいと自然自己主義に流れよほど注意してゐませんと、動もすれば信仰が退歩する傾が御座います。そして信者並に未信者を躓せます、說敎の中毒でも受たのでせうか寶玉の御言葉を聞く機會は度々御座いますが、新しい生命の水を吸むことはいと稀で御座います。二ケ月半の暑中休みを與へられました私は、もう時間がないとは申しません、頭が疲れたとは申しません、だつて深綠につゝまれ小鳥の譜を聞きながら、書讀んでゐるのですもの。喧しい蟬の鳴聲は朝から夕まで聞きなれてゐますので、さほど耳にもつきませんが、こゝを常春と思ひてかさりとは悔もなき此夏の日に、鶯のふりたれどもやさしい音がホーケキョケキョと遠い世界から妙音を送つて居るやうに谷間から洩れて來ますのが、妙に私の心を魅せます。そして夏草の、人の子を夢の世界へでも伴れて行くやうな香が、浸々と私の胸へ流れて來ます。草葉の香、小鳥の譜、昔聖者の胸にはどんなに響いたでせう。まだ見ぬナザレの麗はしい里が偲ばれます。かうした山の中で私は聖書を披繙いて居ます。言々句々胸に觸れ、罪の感を新にせられ、神の愛をほのかに認め、そして私には天路尙遠きを默示されました。

私は基督敎信者が後進者の引導者とならずして却て躓となる者が多くあることを遺憾の事と思つて居ます。人の事はさて措き近い私で御座います、受洗以來既に幾年と云ふ星霜を經ましたけれども、信仰はまだ〳〵赤ン坊で、そして實行はその赤ン坊の信仰にさへ伴ひかぬるので御座います。私の村で基督敎信者に成りました者は私が始めてゞ御座います。それから後一二の信者が出來ましたが、而しいつ此

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

村に基督敎が傳はるでせう！「燈を燃して斗の下に置く者なし、燭臺に置きて家にある凡の物を照さん。此の如く人々の前に汝等の光を耀せ、然れば人々汝等の善行を見て天に在す汝等の父を崇むべし」とキリストは仰せ給ひました。汝等の光？私には此光が御座いません。私は此光を、持つて居ないので御座います。自ら餓え自ら有せずして、いかで人に與へ得んや、これが私の苦痛の種で御座います。一度主に對する信仰の未だ淺く實行なきを感じました時、私は人々の前で感話をし能はぬに至りました。汝等の光これは如何にして得られませうか、洗禮を受ければ得られませうか、主よ〳〵と呼ぶのみで得られませうか「汝等は世の光なり」とは有難い仰せでは御座いませんか、神は人間に此偉大なる可能性をお與へ下いました。聖書をよく理解して、それを實行し、天の父の完全が如く完全くなる日、其日初めてこの光は與へられるのではないでせうか、雲井の月となり得ずとも、闇の夜を守る燈明臺の火となりて舟路に迷ふ水手を導く位ゐの使命は果したいもので御座います。それにはそれまでに靈性を成長さすべき不斷の滋養物を與へてやらねばなりますまい、饑えてゐる靈をそのまゝに見過すなんて酷う御座います。それは自分で自分を棄ると云ふものでは御座いますまいか、そして信者の名を有しながら暗礁となつてしまうのでないでせうか。あゝ恐しい此暗礁は幾多の人を轉覆させて死の手に渡すでせう。行雲流水は沈默の中に無限の敎化を私達に與へて居ますと同樣に、私達の不知の實行が宇宙の山彥にどんな反響を與へてゐるでせうと思ふと、受洗後の修養と云ふものが如何に大切で、個々の責任の重且つ大なるかと云ふことを弱い胸に痛い程鞭打たれるので御座います。

◎明治より大正に移りし日

笠間のぶ子

嚴かなる靜寂の中に、我等が住む島の世は明治よ

り大正へ移つて行つた。明治の御代の名殘の黑雲が悲しくも漂よう大正の朝、私は自分の生れたのは明治の御代であつた事を思つた時、忠君愛國などゝいふ四角な文字をはなれて、心から自然に湧き出づる偲はられぬ哀悼の思ひに打たれたのである。

今迄知らぬ手によつて書かれ、見ぬ指によつて剝られてゐた歷史のその一頁が、今自分の目のあたりしかも忘れられぬ手によつて返されたのを見た時、私は其書かれし文字の餘りに悲しく、いたましいのに堪へがたい思ひがしたのである。

畏れ多き事ながら、私は今日まで……此事のあるまで、此私が小さい弱い自分が……人から敎へられた頭でなしに、自分一人がもつてゐる此心が、かくまでに遙に遠く高く雲の上ふかく在ます國の君を慕ひ奉つて居たとは知らなかつたのである。私は幼い時から我が國には忠君愛國の男女が滿ちてゐるさいふ事を知つて居た……敎へられてそのまゝ信じてゐた。然し自分が此曲つた何の功勞もない汚れた心をそのまゝ捧げて、敬愛し奉つてよいものであるかどうか、遂に大膽に考へを馳せた事はなかつた。そして私かに此野育ちの何もしらぬ自分の心で思ふ事が世に云ふ不敬にあたりはせぬかと怖れて、そのまゝにしてあつたのである。

ところが今度不意に　陛下の御惱の事を承つて、今迄種々樣々のものによつて押へつけられてゐた私の心……此國に生れ、民の心情からあふれ出て、悲しい心をそのまゝに泣いたのである。

私は　陛下の爲に泣いて祈つた。そして　陛下のために狂せんばかりになつて祈念をこらす我同胞の爲には祈ろ言葉もなく、唯胸かきむしらるゝ樣ないたましさに悶えたのである。

陛下の御惱をのぞき給へと、深き御惱になやみ給ふ　陛下を拜して祈らねばならぬ人の心。遠き神、近き宮、古き社、新しき殿と、日も夜も短しと走せ廻りて、祈念をこらす民の心、覺えもきらぬ萬神々の御名を誦じて、神としいふ神、高き神も低き神も

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

何神やら知らぬ神にも祈らねばゐられぬ人の情を思ふ毎に、凡ての形式を燃しつくして一筋の焔となつて直に天に達すべき此赤誠を見る毎に、聞く毎に、祈る心は一つであるのにと今更やるせなき思ひがするのである。

時事其折々

記者

諒闇日誌

○七月三十日　明治四十五年七月三十日以後を大正（タイシヤウ）元年と改めらる▲同日午前一時　今上天皇陛下には宮中に於て踐祚式を行はせらる

○七月卅一日　午前十時宮中に於て踐祚朝見の儀を行はれたる後臣民及び陸海軍々人に優渥なる勅語を賜ふ。西園寺内閣總理大臣上原陸軍大臣齋藤海軍大臣は直ちに奉答文を奉る▲午後五時殯殿に於て大行天皇に對し御拜訣の式を行はせらる、鳳柩は第一御船第二御函第三御肌附第四御棺の順序にて卽ち四重の御棺より成り長さ九尺高さ四尺五寸棺一重毎に清淨なる白絹を以て之を覆ひ奉り萬事極めて御質素なり▲大喪使職員任命あり貞愛親王殿下は大喪使總裁に渡邊千秋伯は副總裁に仰せ付らる

○八月一日　午前宮中に於て開かれたる大喪使會議に於て山城國紀伊郡堀内村桃山を以て御陵地さなすべき旨叡許を得て確定し閑院宮載仁親王殿下に御檢分の旨御諚あり殿下は御旨を畏給ひ一日午後七時と云ふに片山内匠頭山口諸陵頭以下數名の宮内官を召具され新橋發急行列車にて御西下あらせらる▲出羽海軍大將の率ゆる第一艦隊及び横須賀府豫備艦隊旗艦鞍馬は同日午前八時品川臺場を距る三海里の沖に艦列を布き六十發の弔砲を發射せり

○八月六日　九月十三十四十五日大行天皇の大喪儀を行はせらる旨官報號外を以て告示あり▲御陵所は桃山と決定す▲臨時議會召集の詔書發布せらる卽ち八月二十一日より三日間東京に召集さる▲御大葬期日は九月十三日と確定したるに付き各停盟國政府に對し公式に通牒を發す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○八月十一日　午前六時十分桂公後藤男露都より歸京す

○八月十三日　午前十一時皇族元老及び大臣に優詔を賜ふ▲桂公内大臣兼侍從長に任せらる、德大寺侍從長は同時に本官を免せられ特に大臣の禮遇を賜ふ▲午後一時殯宮移御祭御執行あらせらる、本日以後九月十三日迄近衞師團將校をして殯宮警備をなさしむ可き旨仰出され同師團司令部は大井少將指揮の下に二十四名の將校を選拔し十二名宛晝夜更代警備の任に當る事となる

○八月十四日　午後二時より神宮奉建に關する各團體聯合協議會は商業會議所に開會、神宮内苑は代々木御料地外苑は青山舊練兵場とし神宮御造營奉賛會を組織し獻費取纏の順序を立つる等の覺書を作成す▲青山御大葬場の工事着々進捗す

○八月十六日　御靈柩を青山臨時停車場より桃山御陵域に移御すべき鐵道院の靈柩車輛は新橋工場內塗工場内にて組立を開始す

○八月十八日　殯宮二十日祭御執行

○八月廿一日　臨時議會の成立、衆議院に於ては正副議長を選擧し大岡育造氏議長に關直彦氏副議長に當選したり

○八月廿三日　午前十一時貴族院に於て開院式擧行仰出さる

○八月廿四日　大喪費豫算案（豫算額百五十四萬五千三百八十九圓）兩院を通過す

○八月廿七日　大行天皇の御追號は明治天皇と稱し奉るべく御確定あらせられたり

新刊紹介

△恩寵溢るゝの記　バンヤン作　松本雲舟氏譯

本書は天路歷程の著者として知られたるジョン、バンヤンの自叙傳である。もし讀書界に面白い書物と云つて尋ねたら或は數少くはないかも知れぬが、我れ等の心情に高き調子を與へる書物に至つては誠に多からざるの恨みがある。本書は譯者自身始めは餘りにその調子の高きに困難を覺ゆたさあるやうに、人間の靈界の經路を寫して妙を得たものである。譯者はこの書が餘りに內的事實に偏して外界に起つた事實を粗略にせるを遺憾とし、親切なる傳記を附加してバンヤンの生涯を一層明らかに寫し出さんことに務めて居る。

發行所東京京橋區尾張町警醒社。定價壹圓也

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯だより

△世は明治より大正に移りて、變遷きはまりなき様を、目のあたり見るにつけても、この秋は一しほ思ふ事多きを覺え候。今や都大路は御靈柩の通路を啓きまゐらする爲、道を廣め、石を敷き、ローラを軋らす音の終日悲しく聞えて、はや幾日ならずして、御尊骸の此の地を去らせ給ふを思はせ、更に萬民、無限の涙にくるゝにて候。

△新帝御登極以來、政務に御精勵遊ばさるゝさま有難く、御踐祚の詔勅を拜し參らせて、御謙讓以て先帝の御遺業に添はせ給はんとし給へるを見て、眞に涙の中にも新らしき日の登るを覺えて、萬世一系の天皇を戴ける我國家の幸福を今更感謝いたされ候。

△世は移り事は變らんとも、一筋に國の爲、人の爲、盡すべき道は露たがはず、我れ等はこの永久の事業をめざして進まざるべからずしかもこの日、この秋、國家の大事に際してわれ等の心は一大打擊を受け、比類なき覺醒の狀態にあり。願はくばこの心意を驅りて、益々深く遠く、淸く正しく我れ等を磨き、先帝が明治維新の偉業を遂げさせ給へる如く、精神界の一大維新を行ひて、眞に大國民たるの資格を備へんこそわれ等が忠誠を致すべき道ならめと思はれ候

三四子

定價

（郵税加算）	内地及朝鮮支那	外國
一部	金拾貳錢	金拾六錢
六部（半年分）	前金七拾貳錢	前金九十貳錢
十二部（一年分）	前金壹圓四十錢	前金壹圓七拾五錢

廣告料

一行（廿三字詰）	金廿五錢	一頁	金拾圓
四半頁	金三圓	内表紙	金拾貳圓
半頁	金五圓	外表紙	金拾八圓

猶ほ引續き御廣告の向へは特別大割引可仕候

摘要

▲本誌代金は總て前金にて御拂込み被下度候

▲郵券代用は一割增の計算にて御送附被下度候

▲御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候但手數料金壹錢御加へ被下度候

▲通信、爲換、寄附雜誌等は必ず發行所宛に願上候

大正元年八月三十日印刷
大正元年九月一日發行

發行人兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區丸山町四番地　相原一郎介
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所
發行所　東京市小石川區林町四十三番地　新人社
電話番町二五四四
振替貯金口座一四〇〇五

新人

第十三卷第九號目次

▲天皇陛下御踐祚、御略傳
▲大正時代の基督教……社説
▲明治天皇の聖德……海老名彈正
▲最終の恩賜……金森通倫
▲フレンセンの基督觀……大塚楠男
▲基督論……海老名彈正

◉如何にして基督教を社會に徹底せしむ可きか

井深梶之助　元田作之進　内ヶ崎作三郎　渡瀬常吉　近藤長藏　福田錠治　今泉眞幸　深田康算　寺澤精一　今岡信一郎　高木壬太郎

白石喜之助　三井芳太郎　安部清雄　中村長之助　竹崎八十治　額賀鹿之助　蘆田慶藏　岡田哲藏　原田助　富永德磨　杉浦貞二郎

▲ブース大將を懷ふ……大隈伯爵
▲ブース大將と救世軍……島田三郎
▲ブース大將の永眠……山室軍平
▲聖クリストフエル……新田奎一
▲北海道旅行記……海老名生
▲明治神宮論……時評子

東京新人社發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界 第三卷 合本

殘本僅十數部　定價金壹圓（送料共）

◉社說　（安井哲子）
▲死ぬ迄働き續ける元氣▲無意識の感化▲個人の歴史▲奮闘と慰安▲他人の喜びに對する同情▲趣味のいろ〳〵▲過つて改むるに憚る事勿れ▲懷かしい十年前の夏▲溫情▲勇氣▲犧牲の精神▲心の準備

◉講壇　（海老名彈正）
▲現代婦人の缺陷▲永遠の生命▲恩惠の聲▲柔和の福音▲誤解せられたる基督▲女子の解放▲愛苦の眞義▲神の聖愛▲向上の動機▲基督の家庭▲基督教の眞髓

◉想苑
▲新らしき生活　谷津博士
▲現代女學生の惡傾向　小此木松子
▲禮義の根本觀念　三谷民子
▲亞米利加だより　海老名一雄
▲かあやん　德富健次郎
▲現代小說雜誌　小山東助
▲湯臺叢話　谷澤直秀
▲獨逸見聞記　吉野作造
▲婦人解放の是非　峯田脩
▲佐久間大尉の手紙　德富健次郎

▲矯風問題　島田三郎
▲女子の教育の標準　村田勤
▲婦人の活氣　小此木松子
▲伊香保より　野口精子
▲形式道德の無能力　村田勤
▲土耳古の話　小松武治
▲惠み多かりし二夏　三谷民子
▲夏の巴里　藤島武二
▲西班牙の夏　湯淺一郎
▲常樂の生活　二宮貞子
▲子女教育に對するの母の務　海老名みや子
▲婦人と信仰　海老名彈正
▲「アンドリヤ、デルサト」を讀みて　三谷民子
▲無題錄　小此木まつ子
▲女子の高等教育論　ジョルダン博士
▲我國女子の將來　成瀬仁藏
▲婦人解放問題　内ケ崎作三郎
▲男女問題の意義　安部清藏
▲淨心錄　谷澤直秀
▲世界最大の美　宮川經輝
▲文欄▲家庭▲雜俎▲衞生▲隨感▲其他種々

院長診察、月、水、木、金午前、入院、診察應需
林、峰間、兩副長ハ目下當院ニ在勤、
(本電)八八八(病院用)
八九八(私宅用)

東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎海濱從停車場半里
電、チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、
院長診察、土曜日午後、入院、診察應需、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第四巻第九號

大正元年九月一日發行

ライオン歯磨

見よ
活躍せる商標の
ライオンを見よ

獅子の商標の行く處齒牙健に口中清く身神自ら爽快なり。

發賣元
東京 大阪 名古屋
小林富次郎

東京市小石川區林町四拾參番地
新人社
振替口座東京一四〇〇五